

3
263
2

氣海觀瀾廣義
二



PP=AB
269
卷

東洋

藏書

凡例

原書ハ文政十一年和蘭人ボイス氏著ス所

ム子ナチュールキムンヂススコールブク

セル者ニシテ初學ニ理科ノ大意ヲ知ラシムムガ為

ニスル所ナリ故ニ時刻度量等唯其大槩ヲ示ス今コ

レヲ抄譯スルニ方テ傍天保二年同氏ノ著セルホル

クスナチュールキムンヂ

グ氏著ス所ノ醫科必讀格物書等ヲ合ハセテコレヲ

摘シ且リットロウ氏ノ説ヲ交ヘ以テ其闕ヲ補フ天體

篇ハ每書載スル所時日度数或ハ一ナラズ蓋所謂大

明治年月

格物
凡例
ト題

東洋

凡例

凡例

數ヲ舉グルト詳算スル者トニ因ル覽者コレヲ怪ム
ト勿レ。

川本裕識

氣海觀瀾廣義目次

卷四

天體

卷五

動

游動直落斜落

複動

中心力

重心

卷六

運重器
物體衝突

氣海觀瀾廣義卷四

三田

川本裕幸民 譯述

天體

日月星謂之天體。大小不同遠近大異。

夜間天上ヲ仰キ觀レバ。赫赫タル星曜五千許アリ。

又望遠鏡ヲ以テ見ルハ。萬萬窮ナシ即七星漢名昴宿

ノ如キモ十ホ四十餘星ノ聚マレル者ニシテ銀河

ノ如キモ無數ノ星ノ合シテ白帶トナル者ナリ。

星ノ大ハ我地球ヨリ大ナル者多シ。又地球ニ齊シ

キ者アリ又小ナル者アリ其距度多クハ未詳ナラズ然レモ已ニ知リ得タル者アリ其中太陽ヲ距ル一我地球ヨリモ八十若ハ百倍ニ過グル者アリ○太陽ハ諸游星ヲ引キ諸游星亦太陽ヲ引ク此兩力相合シテ諸游星常ニ太陽ノ周邊ヲ巡ル此引力ハ常我太陽系ノミ相達スルニアラズ他ノ太陽系恒星ニモ亦相及ボス者ニシテ諸星維持ノカヲ説クハハ求心遠心ノ二トシ其一引一擠ノカヲ以テ諸星ヨク萬世不易ノ路ヲ畫ストイノ尚詳ニ中心カノ條ニ載ス○天體相感ノカヲ測リ巡路ノ廣狹ト距

離ノ多少ヲ知ルハ星學家ノ專務ナル所ニシテ地球ノ所在ニ從テ人身ノ狀態モ亦變スルガ故ニ醫學ニ於テモコレヲ忽ニスベカラザルナリ

天體分為四類曰恒星游星衛星彗星是也○恒星常同其處自發光輝其數最多太陽亦其一也

太陽ハ游星天ノ中央ニ居テ光ト温トノ源トナル其體最大ニシテコレヲ地球ニ比スルニ圓球トシテコレヲ算スレバ其面一萬二千七百二十三倍立方體トシテコレヲ算スレバ其積百四十三萬五千零二十五倍ニシテ地球百五十萬箇ヲ容ルベシ○

太陽ト地球トノ距度ハ彈丸ノ常速ヲ以テ計ルニ
應ニ二十五年ヲ經ルニ非ザレバ達スルヲ能ハザ
ルベシ。或曰一秒時ニ一千二百尺本那弱ヲ射ル所
ト。○太陽ハ炎炎トシテ火ノ如シト雖。然レ凡暗
體ニシテ光ヲ發スル蒸氣輪アル者ナリ。光線ノ燃
性アルハ他ノ原因ニ係カルトイヒ。或ハ太陽ハ空
中ニ發起スル水素氣ノ中點ニシテ游星ノエレキ
テルニ遇テ燃燒シ光ヲ發ストイフ其光線ハ十四
分時ヨリ十六分時マデニ地上ニ來ル其遠ニ千萬
里ナリ。○其上面ニ數箇ノ暗點アリ。日ヲ逐テ其處

ヲ移スヲ見ル。故ニ二十五日半ニ一回其軸ヲ轉ス
ルヲ知ル。コレヲ太陽ノ自轉トイフ。此一顯一隱ス
ル所ノ暗點ヲ謂テ太陽ヨリ昇騰スル烟及ヒ蒸氣
ノ原ナリトシ。或ハ實質ノ未燃エザル者ナリトシ。
或ハ已ニ燃エ畢リタル大燼ナリトス。
恒星ハ我太陽ト其體質ヲ同ス。其形ノ大ナラザル
ハ。我ヲ距ルヲ甚遠キヲ以テナリ。其距度ハ未詳ナ
ラサル者多シ。或曰ク彈丸ノ速カラ以テ我地球ニ
近キ者ヲ射ナバ。五百萬年ニシテ始メテ達スベシ
ト。以テ其遠キト天ノ大ナルトヲ察スベシ。○恒星

ニ光輝増減スル者アリ。是猶我太陽中ニ在ルガゴ
トキ暗點アリテ我ニ向ヘバ光減シ。我ニ背ケバ増
スナルベシ。又多星聚マリテ一星ノ如ク見ユル者
アリ。コレヲ重星ト名ヅク。望遠鏡ヲ以テスレバ其
星互ニ居ヲ換ヘテ周旋スルヲ見ルベシトイフ。又
數千ノ光點輻湊シ。雲片ノ如クニシテ。而シテ又其
星ナルヲ見ルベキ者アリ。故ニ銀河ニ同トス。又
唯光斑トイフベキ者ニシテ。望遠鏡ヲ以テモ見分
カチ難キ者アリ。コレヲ霧斑トイフ。又更ニ光體ノ
集マルノミニシテ。未一人天體トナラザル者アリ。

○恒星ハ我太陽ノ如キ者ナレバソレニ屬スル游
星アリテ巡行ヲ為ス。亦我太陽ノ如クナルベシ。
然レモコレヲ見ルヲ得ザル者ハ其距離甚遠ケ
レバナリ。故ニ吾人觀ル所ノ星ハ際皆太陽ニシテ。
コレニ屬スル游星ニ光ト温トヲ附與スル者ナリ
トスルハ。太虚ノ廣大ナルヲ實ニ驚クニ堪ヘタ
リ。

游星常異其處。受光於太陽。其數十。地球亦其一也。

游星ハ一ニ惑星ト名ヅク。コレヲ見ルニ恒星ニ異
ナラズシテ。只僅ニ光多キヲ覺ユルノミ。其巡行ス

ルニ常道アリト雖。或ハ東ヨリ西シ。或ハ西ヨリ東
 シ。或ハ靜止スルガ如キヲ見ル。故ニ此名アリ。説次
 リ。古人ハ唯水星。金星。火星。木星。土星ノミヲ知レリ。
 近來ハ穀星等ノ數星ヲ發明ス。○諸游星太陽ヲ巡
 ルノ次序左ノ如シ。即第一圖日ハ太陽ナリ。水ハ水
 星ナリ。八十八日ニ一周ス。金ハ金星ナリ。二百二十
 四日七時或ハ二日五ニ一周ス。日出前日没後ニ出
 ズ。故ニ又晨星宵星ノ名アリ。近來此星中ニ非常ノ
 高山アルト。其周圍ニ蒸氣輪アルトヲ創見ス。地ハ
 我地球ニシテ。三百六十五日二五六或ハ五時四分
 十

トイフ。蓋一年ヲ三百六十五日ト定ムルガ故ニ。一
 年ニ六時ヲ餘スヲ以テ。四年ゴトニ一日ヲ加ヘテ。
 四年トス。而シテ自轉ハ二十ニ一周ス。即一年ナリ。
 月ハ太陰ナリ。二十七日半ニ我地球ヲ一周ス。火ハ
 火星ナリ。一年又三百二十一日。或ハ其餘ナホ十二
 一周ス。其光コレガ為ニ常ニ増減ス。木ハ木星ナリ。
 十一年又三百十五日。或ハ三時百二十日ニ一周ス。而
 シテ三帶文アリ。此星大ナルガ故ニ。其光十分ナル
 片ハ美ニシテ殆月ノ如シ。而シテ四箇ノ月アリテ
 コレヲ巡ル。土ハ土星ナリ。二十九年又百六十七日
 或ハ百五十四日ニ一周ス。七箇ノ月ト二層ノ光輪
 十九時トイフ。ニ一周ス。七箇ノ月ト二層ノ光輪

アリ。此輪相離レテ運動シ。日光ヲコ、ニ受ケテ以テ主星ヲ照ラス。其形平扁ニシテ驚異スベキ高山アリ。其高輪ノ厚ニ三倍シ。其直徑三百里ナル者多ク。其低キモ百六十九里ナルハ少シトス。**穀**ハ穀星ナリ。八十四年又八日或ハ八十三日又五日ニ一周ス。二箇ノ輪アリ。其一ハ日中線ニ從ヒ。一ハ晝夜平線ニ從ヒ。縱横交叉シテ直角ヲナシ。日光ヲコ、ニ受ケテ以テ主星ニ反射ス。且六箇ノ月アリ。此星我ヲ距ルト甚遠キガ故ニ。最大ナル望遠鏡ヲ用井ルニ非ザレバ。視認ムルト能ハズ。恐ハ月數ナホ多カル

ベシ。或ハ八箇ノ月アリ。其中二。○望遠鏡ノ大ナル者ヲ以テ諸游星ノ形ヲ視ルト。第二圖ノ如シ。而シテ諸星大小ノ比例ハ自然ノ大ニ準ス。**地**ハ地球ニシテ大小比例ノ為ニコ、ニ加フ。此大ヲ一ト定メ。太陽トノ距度ヲ十ト定ム。地球直徑千七百五十里。周圍五千四百里。面積九百二十九萬二千零八十六里方。**水**水星ノ大ハ十分ノ一ニシテ。太陽ヲ距ルト四分。太陽ヲ距ルト八百萬里。想フニ其熱甚シクシテ水自煮沸スベシ。其**金**金星ハ十分ノ九ニシテ。太陽ヲ距ルト七分。直徑六百六十九里。太陽ヲ距ルト一千五百萬里。

火 火星ハ十分ノ二ニシテ。太陽ヲ距ル_ル一十五若ハ十六分。直徑一千里。太陽ヲ距ル_ル一千二百萬里。
木 木星ハ地球ヨリ大ナル_ル一千四百七十倍。太陽ヲ距ル_ル一萬九千五百八十里。太陽ヲ距ル_ル一萬零八百萬里餘。

土 土星ハ地球ヨリ大ナル_ル八百八十七倍。太陽ヲ距ル_ル一萬七千三百七十里。太陽ヲ距ル_ル一萬九千八百萬里。其寒當ニ地球ニ九十倍スベシ。

穀 穀星ハ地球ヨリ大ナル_ル七十七倍。太陽ヲ距ル_ル一萬九千一百四十一里。太陽ヲ距ル_ル一萬四萬萬里。

諸星ノ距度次第ニ増加スル_ル此ノ如キ順序アリ。蓋水星ノ太陽ヲ距ル_ル度ヲ四トスレバ。金星ハ七ナリ。地球ハ十ナリ。火星ハ十五六ナリ。木星ハ五十二ナリ。土星ハ九十六ナリ。穀星ハ百九十一ナリ。コレハ水星ノ四ヲ原數トシ。コレニ三數ヲ以テ累加スル者ナリ。故ニ原數ノ四ニ一三ノ三ヲ加ヘテ金星ノ七トナリ。又此四ニ二三ノ六ヲ加ヘテ地球ノ十トナリ。又此四ニ三四ノ十二ヲ加ヘテ火星ノ十六トナリ。又此四ニ三八ノ二十四ヲ加ヘテ木星ト木星トノ間ニアル星ノ二十八トナル。故ニ此度分ノ處

必一游星アルベキヲ察シ。近世漸コレヲ發明ス。
 出ツ。又此四ニ十六倍ノ三ヲ加ヘテ木星ノ五十二
 トナリ。又此四ニ三十二倍ノ三ヲ加ヘテ土星ノ百
 トナリ。又此四ニ六十四倍ノ三ヲ加ヘテ穀星ノ百
 九十六トナル。此各分間ノ里數ヲ二百萬里トシテ
 觀ルルハ其距度此ノ如シ。此二百萬里ハ地球太陽
 萬五千里十分一ノ里數ナリ。蓋本文距度ノ算法此
 ノ如キ者ハ木星ハ水星ノ距ルハ四十ハナル故
 土星ノ距ルハ九十ハナル。而シテ此
 算切當ヒザルヲ以テ水星ノ距度ヲ四トナシコレ
 ラ原數トシテ次第ニ三ヲ重リ以テ○火星ト木星ト
 テ算定ニ便ナラシムル者ナリ。○火星ト木星ト
 ノ間ニ尚游星アリテ此算數ニ應スベキヲ察シ。

推考スルト久シ千八百年寛政ピアッシ氏パレルモ
 地ニ於テ一游星其處ニアル者ヲ創見ス。太陽ヲ距
 ルト二十八分ニアリ。ブルクハルト氏オルベル
 ス氏ボロデ氏ラ、ンデ氏コレヲ實測シテ地球ヨ
 リ小ナルト十五分。中徑三百五十二里。太陽ヲ距ル
 ト五千八百萬里。四年又百七十九日或ハ二百二
 太陽ヲ一周スル者トス。或ハコレヲ游星ニアラズ。
 彗星ナルベシトイヘリ。千八百二年享和ラ、ンデ
 氏ピアッシ氏ボロデ氏及ビ有名ノ諸氏皆其游星ナ
 ルト決シ。發明者ノ名ヲ取テピアッシ星ト名ヅケ

或ハセレストイフ。同年三月二十八日「オルベルス」氏「ブレメン」名地ニ於テ「バルラス」ヲ創見ス。此星中徑四百五十五里。太陽ヲ距ル_一五千七百萬里許。或ハ八百萬里四年又百七十九日或ハ二百二十日トイフ。一周ス。セレスト全ク相同シ。千八百四年元化九月一日「ハルディング」氏「ユノ」ヲ創見ス。此星中徑三百零九里。太陽ヲ距ル_一凡五千六百萬里。或ハ五千五百萬里四年又百三十日或ハ二百二十日トイフ。太陽ヲ一周ス。千八百七年元化三月二十九日「オルベルス」氏「ヘスタ」ヲ創見ス。此星中徑六十里。太陽ヲ距ル_一四千九百萬

里三年又二百三十九日ニ太陽ヲ一周ス。此四星太陽ヲ距ル_一殆相同シテ其巡道互ニ出入ス。或曰ク火星ト木星トノ間ニハ唯一游星アルベキニ。今此四星ヲ見ル者ハ元來一星ナリシニ。其内部ニ大變アリテ劇ク破裂シ。更ニ小片トナリテ飛散シ。而シテ其片片亦皆其重力カ引ノ為ニ位ヲ定メテ。太陽ヲ巡ル者ナルベシ。是蓋一ハ四星共ニ甚小。二ハ太陽ヲ距ル_一殆相同ク。三ハ破裂迸飛スト雖終ニ落去スル處ナクシテ亦太陽ヲ巡ル_一他ノ游星ノ如クナルベキ理ナレバナリト。○此諸游星ハ我地球ノ一

類ニシテ皆太陽ヲ巡周ス故ニコレヲ游星系又太陽系トイフ此游星皆此ノ如ク正シク巡周スト雖或ハ西シ或ハ東シ行道常ニ惑亂スルガ如キヲ見テコレヲ惑星ト名ヅクル者ハ吾人此地球上ニ在テ常ニ觀ル所ノ恒星ノ景狀ヲ標的トシコレヲ以テ游星ノ行道ヲ考フルニ由テナリ即第三圖ノ如シ日ハ太陽水ハ水星地ハ我地球ナリ此二星整列シテ太陽ヲ巡ルト雖地球地ニアリ水星水ニアルカハ此水星ヲ恒星一ニ照ラシテ見ル故ニ我右方ニアリ二星共ニ巡行シ地球地ニ來リ水星水ニ至

ルカハ恒星二ニ照ラシテコレヲ見ル故ニ我左方アリテ右ヨリ左ニ巡ルガ如シ又地球地ニ來リ水星水ニ至レバ恒星三ニ照ラシテコレヲ見ル故ニ復右ニ歸ルガ如シ是ヲ以テ惑亂スルガ如キヲ覺ユ○此諸游星浮游シ而シテ其行道ヨク一定スルノ理ヲ知ラムト欲セバ心ヲ太虚ニ游バシメ太陽中ニ入りテ索ニテ諸星ヲ繫ギカヲ極メテコレヲ振轉セバ如何ト想ハムニ諸星必太陽ヲ巡環スベシ然ルニ太陽ニハ此索ナシト雖如是大引カ求心アリテ游星ヲ引接セムトシ又更ニ張カ遠心アリ

テ直ニコレヲ彈離スルヲ司リ以テ相制シテ游
星ヲ定位ノ處ニ在テ周旋シ以テ側圓ノ行道ヲ為
サシムコレヲ游星ノ行道トイフ是猶人一繩ヲ持
シ端ニ石ヲ縛シテコレヲ振ハムニ其石必我周ヲ
環リ以テ圓路ヲナサムヲ石ノ行道トイハムガゴ
トシ○太陽ハ二十四時ゴトニ我地球ヲ一周シ一
年ニ日道ヲ一巡スト見ユ故ニ此時節ヲ算セムガ
為ニ十二宮ヲ設ケ三十日ゴトニ一宮ヨリ他宮ニ
移ルトシ每宮ノ間ヲ分カチテ各三十度トナシ合
セテ三百六十度トナル太陽一年ニコレヲ一巡ス

トナスコレヲ以テ毎日太陽ノ所距各地太陽ノ高
低ト四時ノ變アルヲ察スベシ即三月二十一日
太陽白羊宮ニアリコレヲ春ノ始トシ四月二十日
ニ金牛宮五月二十一日ニ雙女宮ニアリ而シテ六
月二十二日或ハ二十四日ニ巨蟹宮ニ至ルコレヲ夏
ノ始トシ七月二十三日ニ獅子宮八月二十四日ニ
室女宮ニアリ九月二十三日或ハ二十二日ニ天秤宮
ニ至ルコレヲ秋ノ始トシ十月二十四日ニ天蠍宮
十一月二十三日ニ人馬宮ニアリ十二月二十二日
磨羯宮ニ至ルコレヲ冬ノ始トス第一月二十日ニ

寶瓶宮。二月十九日ニ雙魚宮ニアリ。白羊宮ハ赤道ノ中ニアリ。天秤宮ハ其東ニアリ。太陽コ、ニ至レハ晝夜其長ヲ同ス。コレヲ晝夜平點ト名ヅク。磨羯宮ト巨蟹宮トハ回歸點ナリ。磨羯ヨリ雙女ニ至ルマテ太陽南ヨリ昇ル。故ニ此六宮ヲ昇宮ト名ヅク。以テ他ノ六ノ降宮ト名ヅクル者ニ分カテ白羊以下ノ六宮ハ赤道ノ北ニアリ。天秤以下ノ六宮ハ其南ニアリナリ。此十二宮ハ曾星ノ聚マレル者ヲ標的トシ。諸物ノ名ヲ假用シ。コレヲ辨別シ易カラシム。猶都下ノ街區ニ諸般ノ名ヲ命ズルガゴトシ。○

日道ハ斜ニ赤道ニ交ル。此兩線間ハ二十三度二十八分ノ角ヲナス。其相會スル處コレヲ晝夜平點トイフ。太陽コ、ヨリ南巡スルヲ半年。北巡スルヲ亦半年ニシテ。至處自定限アリ。冬至線。夏至線。是ナリ。已ニ限處ニ至レバ南セス。又北セス。太陽ノ止マル處コレヲ日止點トイフ。太陽コ、ヨリ復赤道ニ向テ歸ルナリ。○太陽如是周巡シ。而シテ日日東出西没ス。然ルニコレヲ靜止シテ動カズトイフノ旨趣ヲ知ラムト欲セバ。試ニ舟中ヨリ堤上ノ樹ヲ見ムニ。樹木皆疾走スルヲ覺ユベシ。然レモ是堤樹ノ走

ルニ非ス。我舟ノ走ルニ因テ却テ彼樹ノ走ルガ如キヲ見ル。我地球ノ太陽ニ於ケルモ亦然リ。地球自轉シテ以テ其周圍ニ太陽ノ光ヲ受ク。猶人ノ室中ニ坐シテ其四方ヲ見ムト欲セムニハ其身ヲ回轉シテ以テ見ルヲ得ベク。其室ヲ回轉シテ以テ吾目ニ向ハシメ難キガゴトシ。然ルニ地球若此ノ如ク自轉セバ人必コレヲ知ルベク。且人ノ疾走スルモ尚大氣動キテ風ヲ起スヲ覺ユルナルニ如是地球回轉セバ幾許疾風ヲ生スベシト思フハ謬ナリ。夫地球ハ自己ノ體ノミナラズ。氣雲ヲ併セテ運

轉ス。是疾風ヲ覺エザルノ理ナリ。又地球回轉シテ吾立リ處下ニ向ハシ。諸物必落クベシト思フモ亦謬ナリ。夫物ノ落フルハ地心ノ引カニ因ル。故ニ真ノ下底ハ地心ニアリテ表面ハ皆上ナリ。コ、ニ一球アラム。試ニコレヲ轉セムニ中心ハ常ニ其所在ニ止マリテ其表面ハ上ナラザル所ナシ。故ニ我立ツ所ノ下ニ對蹠ノ人アリ。彼其足ヲ我方ニ向ヘテ立ツ。彼ヨリイヘバ我亦倒立ナリ。是即落チザルノ理ナリ。○地球ハ二十四時中ニ其軸ヲ一轉シ。太陽諸星吾眼前ニ出沒シ。以テ晝夜ヲナス。コレヲ地ノ

日動ト名ヅク。又別ニ一動アリ。一年中ニ太陽ヲ一周ス。コレヲ年動ト名ヅク。四時ノ別コレヨリ出ヅ。彼此ノ地上日光愈斜ナレバ。温暖愈微ナリ。最斜ノ極ヲ冬トス。即第四圖日ハ太陽ニシテ。周圍ノ圈ハ地球一年ノ巡道ナリ。其兩極常ニ天ノ同一方ヲ指シテ巡ル。地球ノ行道ハ側圓ニシテ。太陽其中心ニアリ。諸游星モ亦然リ。地球甲ニアリ。南北ハ軸。一ニハ北熱帶。三四ハ南熱帶。五六ハ晝夜平線ナリ。都ヲ吾住處トシ。太陽北熱帶上ニアリテ。日ト都ト相對スルキハ。光線ノ射來極メテ烈シ。太陽吾頭上ニア

リテ光線直ニ吾身上ニ來ル時。身ニ暑ヲ覺ユ。即夏ナリ。又地球半年ヲ經テ乙ニ來レバ。太陽南熱帶上ニアリ。光線都ヲ射ル。斜ニシテ緩シ。故ニ太陽ヲ見ル。低ク。身ニ寒ヲ覺ユル時。即冬ナリ。此冬夏ノ間ニ春秋ヲナス。即身ニ暖ト涼トヲ覺ユ。又地球冬夏相距ルノ遠ヲ算スルニ。彈丸ノ常速ヲ以テセムニ。五十年ヲ經ルニアラザレバ。達スル。能ハズトイフ。地球此ノ如ク處ヲ變シテ。而シテ恒星ヲ見ルニ。曾其位ヲ變スル。ナキヲ見テ。衆恒星各一大界ヲ有シタル者ニシテ。我太陽如是至大ノ一界ヲ有

スルモ尚單ニ恒星ノ一ニシテノレニ屬キタル游
星ノ動移以テ彼恒星ヲ見ルノ位ヲ變スルニ足ラ
ザルヲ知ルベシ。喻ヘバ猶河中ニ舟ノ行カムニ
其近傍ノ岸堤樹木ハ疾走ノ狀ヲ見ハスモ高遠ノ
大山ハ自若トシテ其位ヲ變セザルヲ見ルガゴト
シ。○地球ハ圓ニシテ首尾平扁其形梨子ノ如シ。諸
天體ノ形皆然リ。古來地球ノ原質ヲ説ク一ナラ
ズ。或曰ク火其原トナルト。或曰ク水其原トナルト。
地心ノ説ハ固臆斷ニ出ヅ。古來地ヲ掘ルノ最深キ
モ四分二里ニ過ギス。是唯地球ノ全徑六千八百八十分

一許ニシテ實ニ其表皮ヲ穿テ者ノミ故ニ今ハ地
心ニ水火若ハ金屬等填實腐朽シアルカトイフヲ
知ルヲ務メス。唯地面ニ見在スル所ノ物ニ就テ
水土ノ二物ヨリ成ルトス。○陸ハ地面ノ四分一ニ
シテ凡二百五十萬里方トス。全地ヲ千萬里トシテ
算スレバ海面ハ七百萬里方ニ過グ。故ニ全地ヲ周
觀スルハ唯舟楫アルノミ。此海水ノ源ハ江河溪谷
及ヒ海底ノ湧泉ナリ。海底ノ山嶽自大小高界アリ。
其最高キ者ハ水面ニ出テ、島嶼沙瀨トナリ。尚高
キ者ハ平地トナリ。溪谷ノ最深キハ二千尋ニ過グ

ル者アリ。○地球ノ南北相對スル所ヲ兩極トス。一ハ北極ナリ。一ハ南極ナリ。或ハ日中極ト名ヅク。此兩極ヲ軸トシテ自轉ス。故ニ又轉點ト名ヅク。ヨリ許多ノ直線ヲ地面ニ引キ。一極ヨリ起テ他ニ至リ。以テ地度ヲ定ム。赤道ヲ横斷シテ直角線ヲナス者ハ日中線ナリ。太陽頭上ニアルキハ。即此線ニ中タルナリ。人各地上ニ居リ。天ヲ仰キテ一點ヲ記シ。コレヲ冠點ト名ヅク。コレヨリ鉛線ヲ垂レ地球ヲ貫キテ地下ノ天ニ至ル。コレヲ足點或ハ下軸ト名ヅク。太陽冠點ニ至レバ。即其地ノ日中線ナリ。冠

點ト足點トノ間ニ線ヲ引テ。以テ南北極ニ達ス。此線ニ中タリタル地ハ。皆同時ニ日中線ニ中タルナリ。○此線ヲ横斷シ。地球ヲ南北ノ二半圓トス。此線ヲ赤道或ハ晝夜平線ト名ヅク。此線ノ半ヨリ地ヲ分カチテ兩極ヲ建テ。一ヲ東極又朝極トシ。一ヲ西極又暮極トス。此線ノ南北兩界ニ數條ノ圈ヲ併ベテ互ニ廣幅ヲ同ス。コレヲ平行圈ト名ヅク。南北最終ノ處ニ方テ。直ニ極點ヲ匝ル者ヲ極輪ト名ヅケ。南極輪北極輪トイフ。地軸ハ南北ヲ定メ。赤道ハ東西ヲ定ム。凡國處方位ヲ知ラムト欲セバ。先其居處

ノ向ノ所ヲ定ムベシ。譬へば吾向フ所。日出ノ方ナ
ル。片ハ即東ニシテ。吾後ハ西。右ハ南。左ハ北ナリ。若
日中ニ在テ太陽ニ面スレバ。左ハ東。右ハ西。後ハ北
ナリ。故ニ一方ヲ認メ得レバ。三方ハ自定マルナリ。
○此地球ノ諸線ヲ天ニ配シ。天球ト地球トヲ等シ。
赤道兩極ヲ同スル。片ハ地球ト他ノ游星トノ向フ
所ヲ知ルベシ。夜間北方ニ向テ不動ノ一星ヲ見ル
者ハ北極星ナリ。南天ニハ一星ノ以テ南極ノ標ト
ナスベキ者ナシ。此二極ノ間ニ一線ヲ畫シ。コレヲ
天軸トイフ。諸星コレヲ巡リ。二十四時ニ一轉シ。東

ヨリ西スル。我地球ニ於ケルガ如シ。此南北兩極
ノ間ニ一線ヲ畫シ。赤道線ト名ヅク。晝夜平分時ニ
在テ。太陽コトニ巡ル。蓋太陽ハ唯其軸ヲ轉スルノ
ミニシテ。地球ハ一年ニ太陽ヲ一周シ。一晝夜ニ其
軸ヲ一轉シテ。西ヨリ東ス。若地球自轉スルノミニ
シテ。年動ナク。バ。晝夜長短ナク。太陽常ニ同處ニ出
没スベシ。然ルニ如是。晝夜ニ長短アリ。四時ニ寒暖
アリ。日出ニ處ノ異同アルハ。地球ニ二動アリテ。太
陽ヲ距ルニ遠近アルニ原ヅクナリ。故ニ今太陽出
没ヲイヒ。日道ノ名ヲ立ツル者ハ。人ニ理會シ易カ

ラシメムガ為ナリ。地球ノ太陽ヲ巡ル一方ニ偏スルヲ以テ。四時ノ長短ヲナス。故ニ冬ノ始ニ方テ太陽磨羯宮ニアル片ハ。地球トノ間最近ク。夏ノ始巨蟹宮ニアル片ハ最遠シ。故ニ春夏ハ稍長ク。秋冬ハ稍短シ。然レ凡其差ハ八日ヲ出デズ。○困帶方角。寒温ノ度ヲ以テ各地ノ氣候ヲ察セムニ。寒帶ニ正帶ニアリ。共ニ南北ニアリ。熱帶ハ唯一ナリ。赤道ノ下ヲ中トシ。冬夏二至間ノ地ニ亘ル。此地ハ熱國ニシテ。太陽毎歲二次頭上ニ来ル。草木繁茂シ。獸多クシテ美ニ。人肥大ニシテ怠惰多欲ナリ。コレニ反シ

テ寒帶ノ地ハ寒國ナリ。太陽頭上ニ至ラザルヲ以テ。斜ニ其光線ヲ受ク。地方曠漠ニシテ。寒威酷烈。野ニ一異草木アルノミ。獸少クシテ猛ク。人矮ニシテ。智力共ニ強シ。正帶ハ寒熱二帶ノ間ニシテ。氣候平和。物産饒多。人類蕃殖シ。學術闡發シ。賢聖挺出スルノ地ナリ。熱帶ハアジ亞洲ノ南境。アフリカ洲。アメリカ洲ノ中境。新和蘭過半。及ビ南海諸島コレニ屬ス。寒帶ハ極規内ニシテ。南北二帶アリ。北ニ屬スル者ハシベリ。及ビラ。フランド。共ニノ北海濱。グロ。ンランド。國ノ諸部是ナリ。南寒帶ノ地ハ積氷常

ニ融ケス。故ニコレヲ詳ニスベカラズ。北正帯ハ陸地多シ。即「アジア洲ノ大分。エウロッパ全洲。アフリカ洲ノ北界。アメリカ洲ノ北部」是ナリ。南正帯ハ「アフリカ洲。南アメリカ洲。新和蘭。新ゼーランド。南海諸島」是ナリ。假ニ全地面ヲ分カチテ千トスレバ。熱帯ハ三百九十八分。兩正帯ハ各二百六十分。兩寒帯ハ各四十一分ナリ。○地球ノ南半ハ北半ニ比スレバ。寒威嚴酷ナリ。南方ノ火島ハ其度「ドイツ國ノ北邊」ニ同ジト雖。其寒水國ノ如シ。是南方ハ太陽ノ居ルト其間短ク。且、陸地小ナルガ故ナリ。○寒暖ノ人身

ニ感スルト極メテ甚シ。天氣爽快ナレバ人皆壯健ナリ。天氣定マラズ。或ハ寒暑燥濕交變スレバ。人自平和ナラズ。故ニ國土ノ所在ヲ以テ其氣候ヲ知り。以テ動植ノ情狀ヲ察スベシ。即赤道ノ南北七十度ノ地ハ草木生スルト稀ニシテ。七十五度ニ至レバ唯馴鹿ト瘡苔アルノミ。疾病モ亦同シ。地方ニ從テ年年同時ニ流行シ。而シテ其居ヲ變スルキハコレヲ免ルベキ者アリ。凡、醫ヲナサムニハ三才關係ノ理ヲ詳ニシテコレガ為ニ病證ヲ變スルトヲ察スベシ。即冬時ノ流行病ハ夏ニ至テ治シ。結腫癰癩類

ハ冬ニ發シテ春ニ劇ク夏ニ減シテ夏末ニ輕ク而
シテ秋ニ愈エ或ハ全治セザルモ病勢大ニ減スル
アリ腫瘍等ハ月ノ盈虚ニ從フテアリ癩癩處女病
眩暈ハ月蝕ノ時ニ發スルテ多ク月經モ亦コレガ
為ニ變シ朔望ハ腹痛傳染病ニ感スルテ多シ此他
地球ノ自轉ニ感シテ夜ハ劇ク晝ハ輕ク晚ニ向テ
勢益張ル等ノ證アリ以テコレヲ徵スルニ足レリ
衛星有三動

衛星ハ月ノ別名ニシテ主星ヲ侍衛スルノ義ナリ
コレニ自轉周地周日ノ三動アリ水星土星穀星ニ

屬スル者ハ遠クシテコレヲ詳ニシ難シ當其周時
ト距離トヲ知ルノニ我地球ニ屬スル所ノ者ハ中
徑四百六十八里半周圍一千四百七十里上面方六
十八萬八千九百十六里内積立方五千三百六十六
萬里我地球ヲ距ルテ五萬一千三百五十三里ナリ
○自轉ト周地トハ日數ヲ同ス共ニ二十七日八時
ナリ故ニ月界ノ人ハ我地球ヲ見ムテ一方ニ止マ
ルベク且地球ヲ見ルテ吾人ノ月ヲ見ルヨリモ大
ナルテ十四倍ナルベキヲ以テ其明ナルヲ想フベ
シ然レモ他ノ一方ノ人ハ如是清光ヲ見ルテ得

ザラム。○諸家月面ノ凸凹ヲ説ク一ナラズ。蓋點
 點最明ナル者ハ山巔ナリ。是日光ヲ受クル一早ク
 且長ケレバナリ。其爛爛トシテ火光ノ如キ者ハ噴
 火山ナリ。光輝不同ノ處ハ谷及ビ水ナリ。又曰ク古
 人湖トイヘル者ハ蓋無水ノ谷ナリ。或ハ曰ク月中
 ノ山ハ最高ク谷ハ最深シ。或ハ曰ク月中噴火山多
 シ。○月ハ二十九日半ニ我地球ヲ一周ス。即第五圖
 ノ**地**ハ地球。日ハ太陽。甲乙丙丁ハ月ノ行道ナリ。月
 ハ暗體ニシテ光ヲ太陽ニ藉ルカ故ニ。太陽ト共ニ
 昇ル片ハ見ルベカラズ。月**甲**ニ來レバ暗處ヲ我地

球ニ面ス。コレヲ新月トス。**乙**ニ來レバ唯一半ノ明
 面ヲ見ル。即上弦ナリ。兩角吾左ニアリ。コレヲ増月
 トイフ。**丙**ニ來レバ明面全ク我ニ向フ。即滿月ナリ。
丁ハ即下弦ナリ。兩角吾右ニアリ。コレヲ減月トイ
 フ。○月ノ地球ヲ巡ルヲ前ニハ二十七日半トイヒ
 コ、ニハ二十九日半トイフ者ハ第五圖ノ如ク。月
 ハ**甲乙丙丁**ノ行道ヲ二十七日半ニ巡ル。然レ月
甲ヨリ**甲**ニ歸ル間ニ地球ハ**地**ヨリ**丁**ニ向テ進ム
 時。**甲**ノ一點已ニ**地**日ノ間ニアラスシテ後ニアリ。
 故ニ再**地**日ノ間ニ來ルニハ尚少ク進マザルヲ

得ス故ニコ、ニ二日許ノ差ヲナシテサキノ新月
ヨリ今ノ新月ニ至ルハ二十九日半ヲ以テスルナ
リ或問フ月甲ニ在テ新月ナルカ地ニ住スル人日
ヲ見ルコトヲ得ザラム又月丙ニ來テ滿月ナルカ地
球ヲ以テ日光ノ月ヲ照ラスヲ遮ラム。喩ヘバ假ニ
此燭ヲ太陽トシ我眼ヲ地球トシ我手ヲ月トシ手
ヲ燭ト眼トノ間ニ措クカハ燭火ヲ見ルコト能ハズ
今日月地球ハ此ノ如クナラス如何曰ク然ラズコ
レヲ圖スルニ紙面平坦ナルヲ以テ其狀ヲ正摸ス
ルコトヲ得ズト雖月ハ太陽ノ居處ト正對スル者

非ズ高低アリ譬ヘバ今我眼ト燭ノ間ニ我手ヲ措
クト雖我ヨク手下ニ燭火ヲ見ルガ如シ月モ亦此
ノ如シ或ハ高ク或ハ低ケレバ日光ノ地球ヲ照ラ
スコトヲ妨ゲズ然レハ三體偶正對シテ日光ノ我眼
ニ來ルヲ遮ルコト年ニ二回ニ及ブコトアリコレヲ日
蝕トイフ即第六圖ノ甲ハ日蝕ナリ太陽ノ上面ニ
黒翳ヲ見ル者ハ即月ナリ又乙ノ如ク滿月ノ時ニ
方リ地球來テ太陽ト月トノ間ヲ過キ以テ日光ノ
月ヲ照ラスヲ遮リ月其光ヲ失フコト或ハ一分或ハ
全面皆ニ及ブコト一年ニ二三回ナルコトアリコレヲ

月蝕トイフ。月面ノ翳ハ則我地球ノ影ナルヲ。地ニ
圓錐狀ノ影圖ヲ見テ知ルベシ。蓋地球ハ月ヨリ大
ナルガ故ニ。月ノ皆既多ク。月ハ唯地球半明中ノ一
處ヲ暗カラシムルノミ。又三體重沓スル狀ヲ見テ。
新月ノ時ニ日蝕アリ。満月ノ時ニ月蝕アルノ理ヲ
知ルベシ。○諸天體互ニ相引クヲハ。月ノ地球ヲ引
キテ海水コレガ為ニ潮汐ヲ起スヲ以テ知ルベシ。
即第七圖ノ日ヲ太陽トシ。月ヲ太陰トシ。其中間ニ
アル者ヲ地球トシ。水其全面ヲ包ム者トス。而シテ
月下ニ當ル處ハ。海水ヲ引聚シ高潮ヲナス。恰卵圓

狀ノ如シ。即圖中ノ上ヲ見テ知ルベシ。而シテ地轉
ジ月進ム。從テ上卵圓ノ尖端常ニ月ニ追隨ス。後
六時ヲ經テ右ニ來レバ。コ、ニ滿潮シ上下ハ汐ス。
是上下ノ水ヲ右一處ニ引聚スレバナリ。次ニ月
ニ來レバ。左右ノ水ヲ引聚シテ上下又滿潮ス。環海
ノ水六時ゴトニ高低ヲナス。此ノ如シ。然ルニ月
下ニ水ノ聚マルハ。月ノ引カニ由ルヲ解シ易シト
雖。コレニ反スル地モ亦滿潮スルヲハ。初學ノ解シ
難キ所ナリ。蓋月月ニアレバ上ノ水ヲ引ク。故ニ左
右水減シテ汐ス。然レバ太陽更ニ他處ニ在ルハ。

月ト其カヲ勦セズ。故ニ太陽所在ノ下ハ水減セズ
シテ。左右汐處ニ比スレバ潮高シ。是月ノ引カハ地
球ノ中心ニ達スルノミニシテ。下面ニ及バザレバ
ナリ。今新月ノ時ニシテ月日ニ居リ。太陽ト地球ト
ノ間ニアルハ。當月ノ海水ヲ引クノミナラズ。太
陽モ亦コレヲ引クヲ以テ。新月ノ時ハ大潮ヲナス
ナリ。月ハ海水ヲ引テ高クスルヲ六尺許。太陽ハ唯
二尺。合セテ八尺トス。或曰ク月ニ背キタル方ハ水
高ク湊マルヲ能ハズ。唯低處ニ流合シテ水準ヲナ
スナルベシト。是蓋平常ノ流水ニ就テ考フル者ノ

ミ。水準ハ地ノ引カニ起ル。海水ハ當地ノ引カニ感
スルノミナラズ。更ニ月ノ引カニ因テ潮汐スルヲ
ヲ理會セバ自明ナラム。夫潮形ハ地上ニ直立セズ
斜ニシテ橢圓ヲナス。即第八圖ノ如シ。庚丙己丁ハ
海面ニシテ。月ハ太陰コレヲ引クノ状ナリ。蓋引カ
ハ遠ク隔タルハ終ニ蓋減シテ。距離幕ノ數理ニ
從フ者ナリ。コ、ヲ以テ月ニ近キ丙ハ月ノ引クヲ
最強クシテ癸ニ升リ。地球ノ中心甲ハ唯乙ニ升リ。
遠ク距リタル丁ハ僅ニ戊ニ至リ。庚己ハ狹縮シテ
辛壬ニ至リ。以テ戊辛癸壬ノ橢圓ヲナス。即前圖左

右上下ノ水面是ナリ。中點ノ甲ハ乙ニ移リ。地球ノ
下面ニ水漲ル。乙戌ノ距離ニ同シテ。大抵乙癸ノ
高ニ等シ。是月下ノ地トコレニ反スル地ト殆潮ヲ
同シテ。満月ノ時ニ共ニ大潮アルノ故ナリ。○潮汐
ハ二十四時二十一分間ニ二回アリ。故ニ六時ハ潮
シ六時ハ汐ス。潮スル片ハ東ニ向ヒテ陸ニ進ミ。汐
スル片ハ西ニ向ヒテ遠ク退ク。地球ハ全面ニ水ア
リト雖。潮汐ノ狀ハ等シカラズ。即大海ハ潮汐著大
ナリ。兩地海ヲ夾ミ。海口狹隘ナル處ニハ少ク。大海
ヲ距ル。遠キ處ニハ全ク無シ。即地中海ニハ甚微

ニシテ。東海和蘭通稱ノ益少ク。黒海及ヒ「カスピヤ海」
ノ大沼ニハ全ク無キガ如シ。○大氣モ亦月ノ引
カノ為ニ進退シ。人身モ亦コレニ感スル。多カル
ベシ。唯コレヲ知ル。至テ難シ。蓋月ノ地上ノ諸物
ヲ引クカラ以テ。地球ノ月ヲ引クカニ比スレバ。弱
キ。二百三萬倍ナリ。故ニ氣中ニ在テハ海上ニ
於ケルガ如キヲ見ル。ヲ得ズ。又月ノ為ニ起ル所
ノ變ハ壓カト張カトニ出ヅルガ故ニ。驗氣管ヨク
コレヲ徵スベキガ如シト雖。未曾コレヲ驗スル。ヲ
得ズ。然レ月已ニ氣中ノ水蒸氣ニ感スレバ。氣

モ亦コレヲ受ケ。人身モ亦コレニ感スベシ。又疾病月ノ盈虚ニ因テ變シ。氣中ノ重カ減退シ。病證時ヲ定メテ増減スル等ハ。月ノ單引カヨリハ他ノ原因ヲ察シテ解スベキト多カラム。

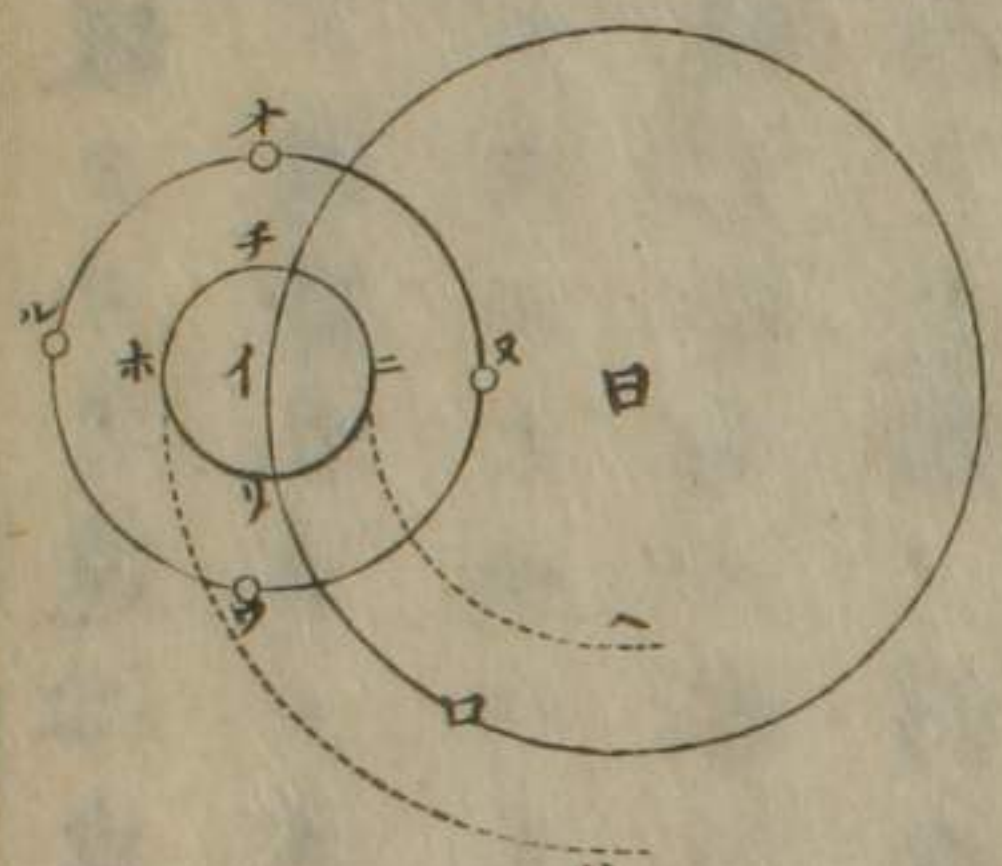
彗星則有光芒。其形不一。行道圓長。

彗星ノ形狀長短等各同シカラズト雖。第九圖ノ如ク丙丙丙行道甚長キ楕圓ニシテ。我ヲ距ルル甚遠シ。故ニ常ニ見ルルヲ得ズ。其巡行スルル迅速ナリト雖。多年ヲ經ルニ非ザレバ。太陽ニ近ヅクル能ハズ。帝太陽ニ近ヅキ來ルルハコレヲ見ルベシ。其中ニ

就テ巡行ノ年期ヲ知ルベキ者。僅ニ二三星アリ。故ニ諸游星ノ如ク常ニ天ニ在テ。我太陽ヲ巡行スル者ナルル疑ナシ。俚諺ニ彗星出ヅレバ其國災アルノ前表ナリト謂フ者ハ信スルニ足ラズ。婦女子ノ諸游星ハ人ノ運命ヲ司ルト謂フト。同日ノ論ナリ。蓋古昔種種ノ男神女神ヲ建テ、人ノ運命ヲ司ルト稱セシニ。五星ニ名ヲ命スル時ニ方テ。木星ニ天神。火星ニ軍神。水星ニ商神ノ名ヲ配シ。以テコレヲ別ツ。後世妄ニコレヲ信スル者アリテ。五星ハ即其神ナリト謂フニ至ル。嗚呼五星ハ即我地球ニ等キ

所ノ天體ナルニ彼ヨク此地球上ノ人民ニ禍福ヲ
與ヘムニハ我地球モ亦彼游星中ノ物類ヲ生殺ス
ベシ。豈此理アラムヤ。

氣海觀瀾廣義卷四終



附録 本篇所載潮汐ノ説ヲ引キテ以テ考證ニ備フ。今
松木耶氏ノ説ヲ引キテ以テ考證ニ備フ。今
潮汐ノ理ヲ解カムニハ須先地球ノ全面ニ同高ノ水
アリテ引カノ為ニ離レザラムト欲スル情アル者ト
シ。日月ノ引カノコトニ感スル狀ヲ檢スベシ。○フ、
ニ載スル圖ノホチリニハ地球イロハ其行道ルオワ
又ハ月道ナリ。イハ地心ニシテ。ロノ
方ニ進ムノ速ハ太陽ノ引カニ應ス
ルヲ以テ地面ノニハイヨリ太陽ニ
近クシテ引カル、一強ク且ニハニ
ヘノ小輪ヲ巡リ運動スルヲイヨリ

緩クシテ遠心カ十分ナラズ。若重カイ點ノコレヲ地
 ニ固著セシメズ。バニ點地ヲ離レテ太陽ニ近ヅカム
 トスルナルベシ。然ルニ地ノ引カヨクコレヲ制スト
 雖其全面ノ水ハ土ノ如ク堅カラズ。且流動シ易キヲ
 以テ太陽ノ引カノ為ニニノ水少ク隆起シテ。僅ニ地
 心ヲ離ル。其隆起ノ大小ハイニニ感スル引カノ強弱
 ニ係カル。○ホ點ハ太陽ノカノ違スルイヨリ弱ク
 シテ水亦コ、ニ隆起スル者ハホハノ道ハ大ニシテ
 太陽ヲ巡ルイヨリ疾ク。且地ノ遠心カ太陽ノ引カ
 ニ比スルニ甚大ナルヲ以テ多ク太陽ヲ離レ。其上面

ノ水モ地ヨリ分カル、カラ生ズベシ。然ルニ亦地ノ
 引カニ妨ゲラレテ。此ノ如クナルイヲ得ズト雖。他處
 小リヨリ高ク潮スルニ因ル。○如是太陽ノ地上ニ感
 スルイ不同ナルヲ以テ地ノ上下兩面相對スル處水
 隆起シテニホニ近キ處ハ潮シ。チリ兩處ハ汐ス。○地
 球ノ太陽ヲ巡ルハ常ニ此ニヲ太陽ニ向ハシメバ。地
 球ノ如キニハ。此海潮常ニ同處ニ在ルベキニ地球ハ
 自轉シテ西ヨリ東ニ巡ルヲ以テ。ニ或ハリ太陽ニ向
 ヒテ。大潮常ニ東ヨリ西ニ進ム者ナリ。故ニ月ノ引カ
 ナキモ亦日中ト中夜ニハ潮シ。朝夕ハ汐スベキイ明

ナリ此太陽ノ為ニ起ル潮ヲ日潮トイフ。○又月
在テ新月ナルハ日月ノ兩引カ相合シテ大ニ強キ
カ故ニ。○點ハ特太陽ノ感スルヨリ地ヲ離ル、一強
キラ以テ潮自大ナルベシ。然ルニ此點ニ反セル。○點
モ亦同時ニ大潮アル者ハ蓋ホ點ハ日月ノ引カノ少
キト周轉ノ大疾ナルトヲ以テ其求心カ地心ヨリ微
ナルガ故ニ水後レテコ、ニ集マルナリ。○月ルニ在
テ満月ナルハ亦同クコ、ニ大潮ス。此時ニ方テ月ハ
太陽ノ地ニ感スルカヲ弱クシ地球ノ巡路ヲシテ少
ク太陽ヨリ距ラシム。而シテ此距度ハ。○ホニ在テハ。○イ

ニ於ケルヨリ強ク。○イニ在テハ。○ニニ於ケルヨリ強カ
ルベキガ故ニ水亦ホ及ヒ。○ニニ於テハ中點。○イヨリ離
ルベシ。○月オニ在ルハ。○ロノ方ニ行ク所ノ地球ヲ
引キテ稍地動ノ速ヲ減ス。月ノカハ。○チニ方テ最大ナ
ルガ故ニ。○チノ水ハ微地球ノ後ニ殘留シテコ、ニ隆
起ス。此時。○リノ水ハ月ノ引カ最弱キガ故ニ。本来ノ速
ヲ失フ、一最少クシテ速ニ進ミ以テコ、ニ潮ス。○月
ワニ在ルホモ亦同ク。○リチノ處満潮ス。此時月ノ引カ
ヨク地動ヲ速ニス。故ニ其カノ達スル所。○リニ於テハ
イヨリ強ク。○イニ於テハ。○チヨリ強カルベシ。コ、ヲ以

海潮論 卷四 廿九

テリノ水ハ前進シ。チノ水ハ後滞シテ中心イノ遠ダ
カルベシ。○如是潮汐ハ日月ノ引カニ起リ。而シテ太
陽ノ地球ニ感スル一ハ月ノカヨリ大ナリト雖。月ノ
潮汐ヲ起ス一ハ却テ太陽ヨリ大ナリ。且潮ハ日月ノ
カノ相合スルニ係カル。同一ノ状ハ少クシテ地球ノ
諸部大ニ差異アル者ハ。蓋一百五十萬分許小ナル地
球ハ。太陽ヲ距ル一二千一百萬里ナルニ。僅ニ地球ノ
五十分一ナル月ハ。地球ヲ距ル一唯五萬里ナルガ故
ニ。月ノカハ地ノ彼此遠近ニ從ヒテ。大ニ異ナルニ。太
陽ノカハ地ノ諸處ニ感スル一。同等ナルヲ以テナリ。

○朔望ハ日月地球一直線ニ立ツガ故ニ。ニホノ處潮
シテ地平線チリノ處汐ス。地球自轉シテ他處ノニホ
ノ方ニ向ハシム故ニ。海潮ノ巡行ハ地球ノ所向ニ反
ス。前ニニニ在リタル點ハ。六時ヲ經テチニ来リ。ホ點
亦リニ来リ。以テ大潮汐アリ。其後月ルヨリオニ轉シ。
或ハルヨリソニ向ヒ。而シテ地球一回其軸ヲ轉スル
ハ。月潮ハ日潮ヨリ少ク東ニ在ルベシ。然レハ兩潮
相合シテ最高ノ處ハ月下ニ近シ。是月潮ノ強キヲ以
テナリ。故ニ朔後ニハ潮ニニアラズ。望後ニハ潮ニア
ラズ。太陽ノ頭上若ハ足下ニアル處ニ潮セズシテ月

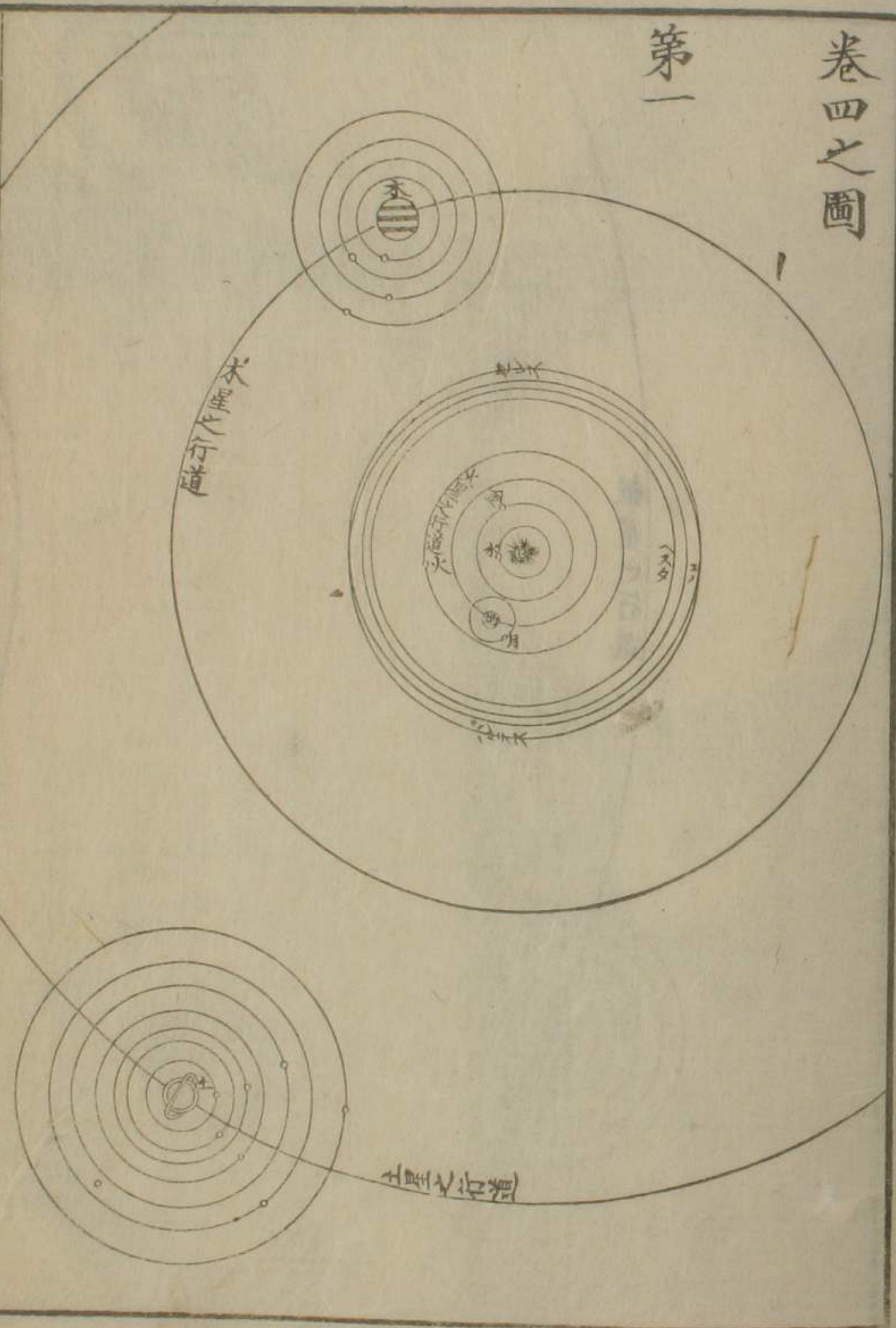
ノコ、ニ米ル氏始メテ潮ス。此ノ如ク潮水晚ル、
日ニ大ニシテ。月ノ巡行愈遠キニ從ヒテ。兩潮次第ニ
離隔シ。潮汐次第ニ小ニシテ。上下弦ニ最小ナリ。此時
月潮日汐ト合シ。日潮月汐ト合シ。太陽少ク水ヲ^チ及
ヒリヨリ^ニ及ヒ^ホノ方ニ引キテ。月ノ為ニ汐スベキ
處ニ聚ム。故ニ月ノ為ニ潮スベキ處ノ水稍減ズ。○弦
月後數日。朔望ニ至ル間。潮次第ニ増スハ。日潮月潮漸
相近ヅキテ。朔望ニ至テ終ニ相合スルナリ。此月ノ為
ニ起ル潮ヲ月潮トイフ。
右ニ所説ノ潮汐ハ。日日月月巡環スル者ニシテ。別

又年年巡環スル者アリ。即晝夜平均ノ時ハ。他時ヨリ
モ朔望ニ潮大ニシテ。上下弦ニ小ナリ。コレニ反シテ
日至ノ時ハ朔望ニ小ニシテ。上下弦ニ大ナリ。是日月
ト地球ノ晝夜平線トノ角度ヨリ起ル所ニシテ。日月
ノ引カノ回歸線邊ニ感スル所趣ヨリ出ツ。晝夜平均
ノ時ハ。太陽一直線ニ晝夜平線上ニ立チ。月モ亦此時
朔望ニ赤道ノ近邊ニ在テ其カ相合ス。故ニ其潮大ナ
リ。日至ノ時ハ其所趣遠ク距ル^一二十^度半ナルガ
故ニ。朔望ニ潮小ナルナリ。又冬ハ太陽大ニ地ニ近キ
ヲ以テ。冬至頃ハ夏至頃ヨリ潮大ナリ。○讀者此説ヲ

見ハ月下若ハ日月ノ力相合スル處ニ方テ直ニ潮ス
 ル者ナリト思ハム。然レ水亦自固持カアリテ。一回
 コ、ニ潮セムニ他カノ妨ナキ寸ハソノ處ニ止マル
 性アルガ故ニ。日月其處ヲ移スト雖。其潮忽コレニ隨
 ハズ。水自在ニ進退スル大洋中ニ在テモ。日月日中線
 ニ來ルノ後。二時半許ヲ經テ始メテ潮シ。日月已ニ過
 キ去ルト雖。水暫コ、ニ静息ス。是潮水ノ正ク新月滿
 月ニ應ゼズシテ。半日若ハ二三日晚ル、トアルノ理
 ナリ。裕曰。此書尚各國ノ位置。及ビ海濱ノ形狀深淺島
 嶼等ニ從ヒテ。潮ニ大小遲速アルヲ論悉スト雖。
 今唯日月ノ引ミヲ抄ス。

卷四之圖

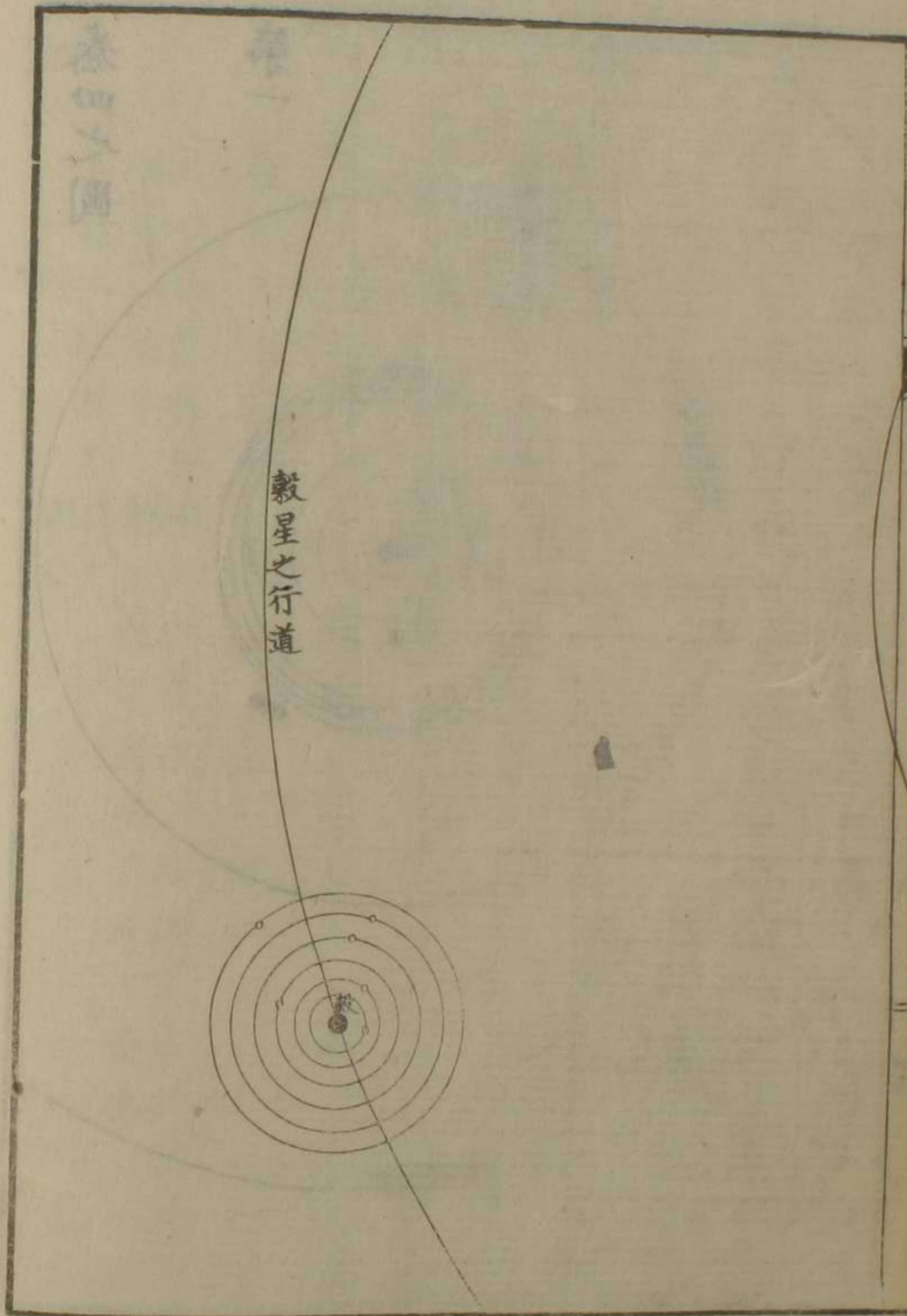
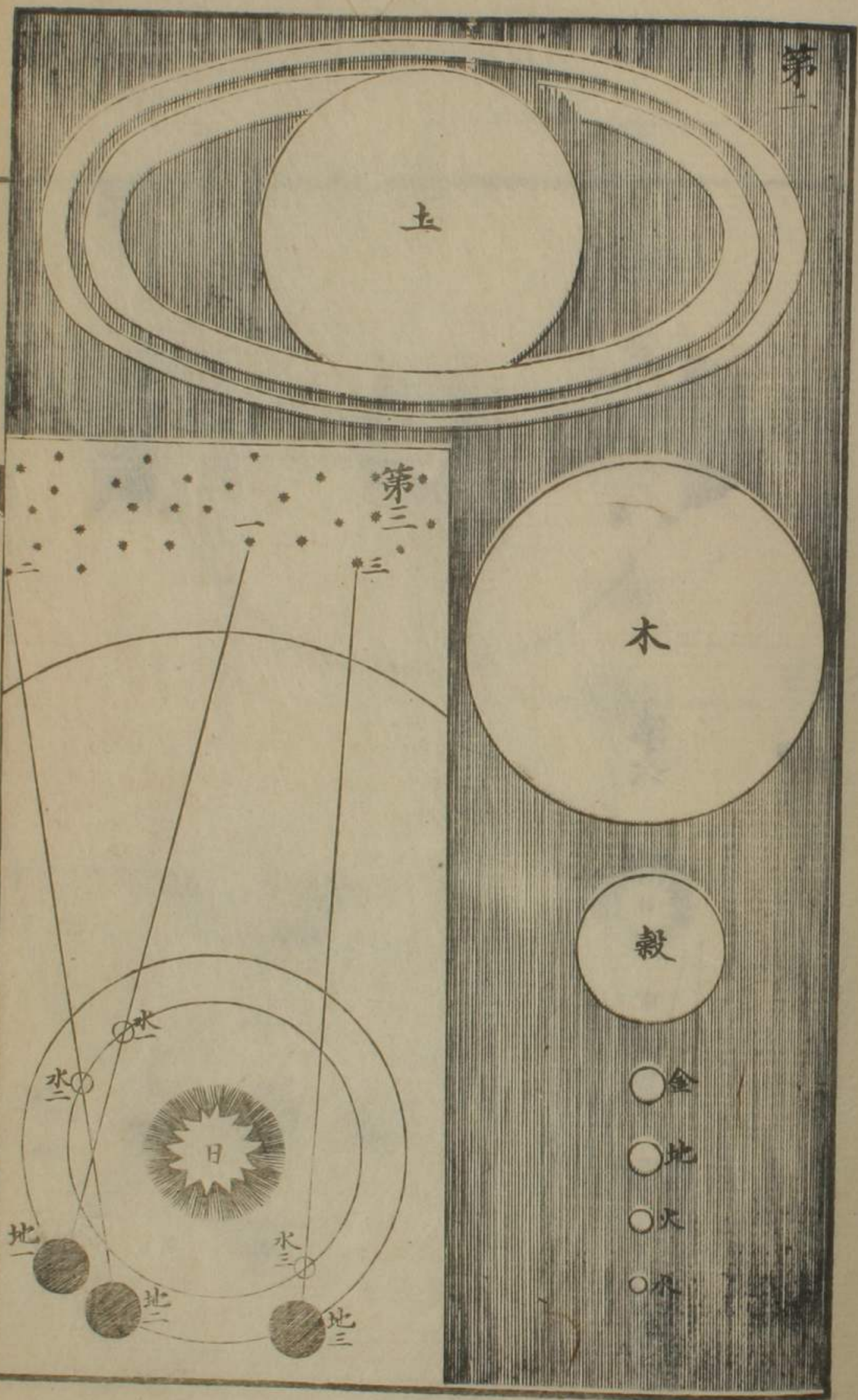
第一



氣海觀瀾廣義

卷四

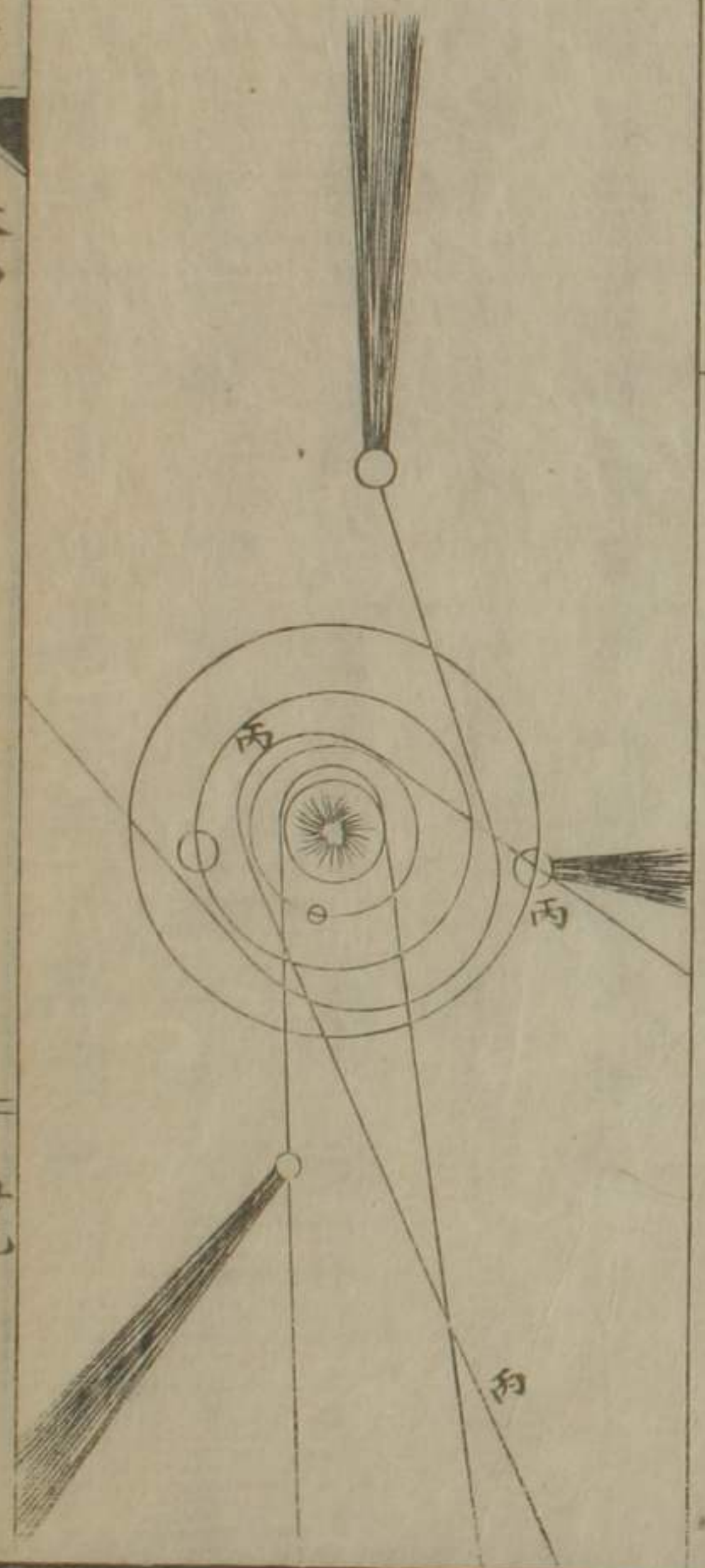
廿七



氣海觀瀾圖
卷四

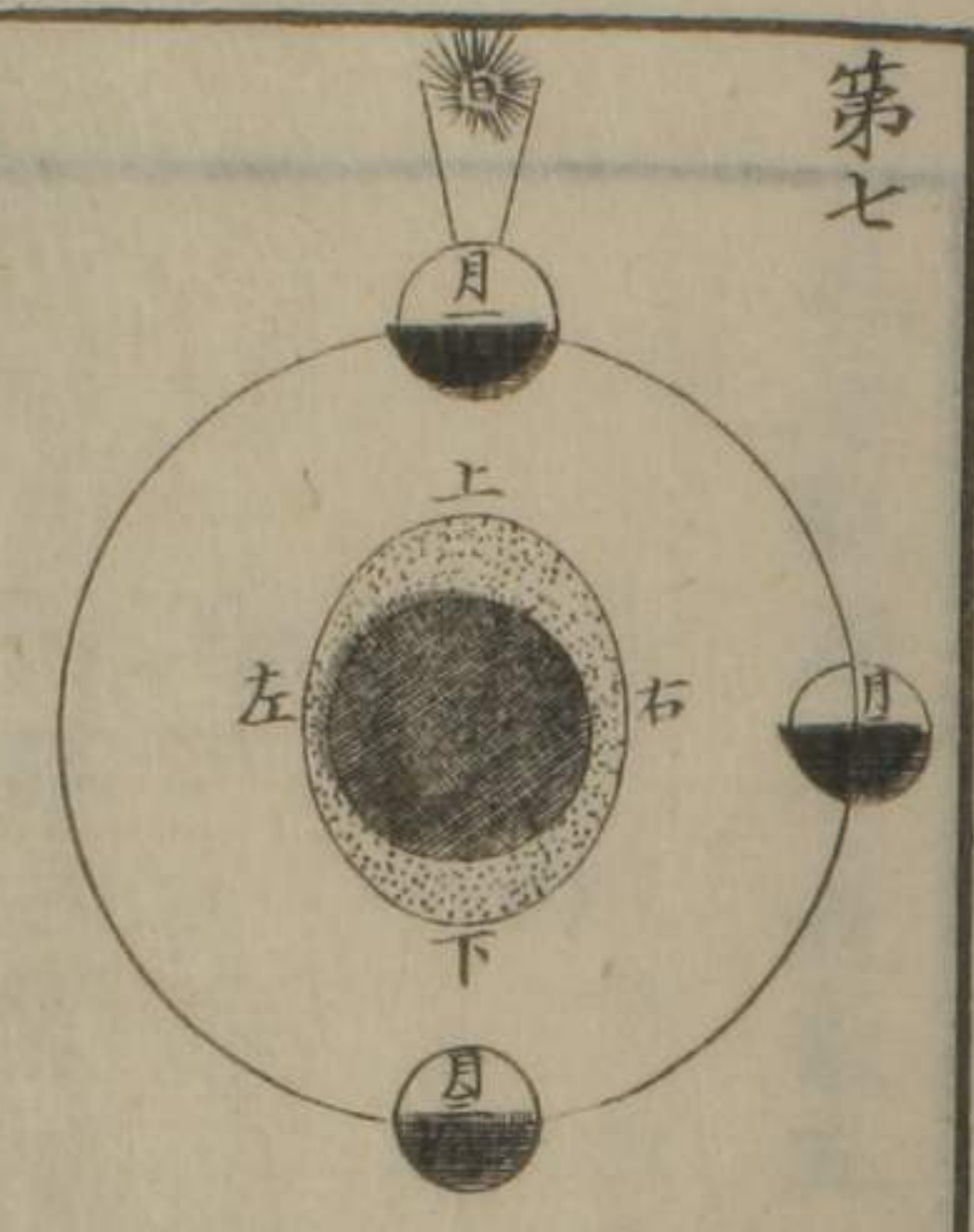
氣母見闕音義
卷四

第九

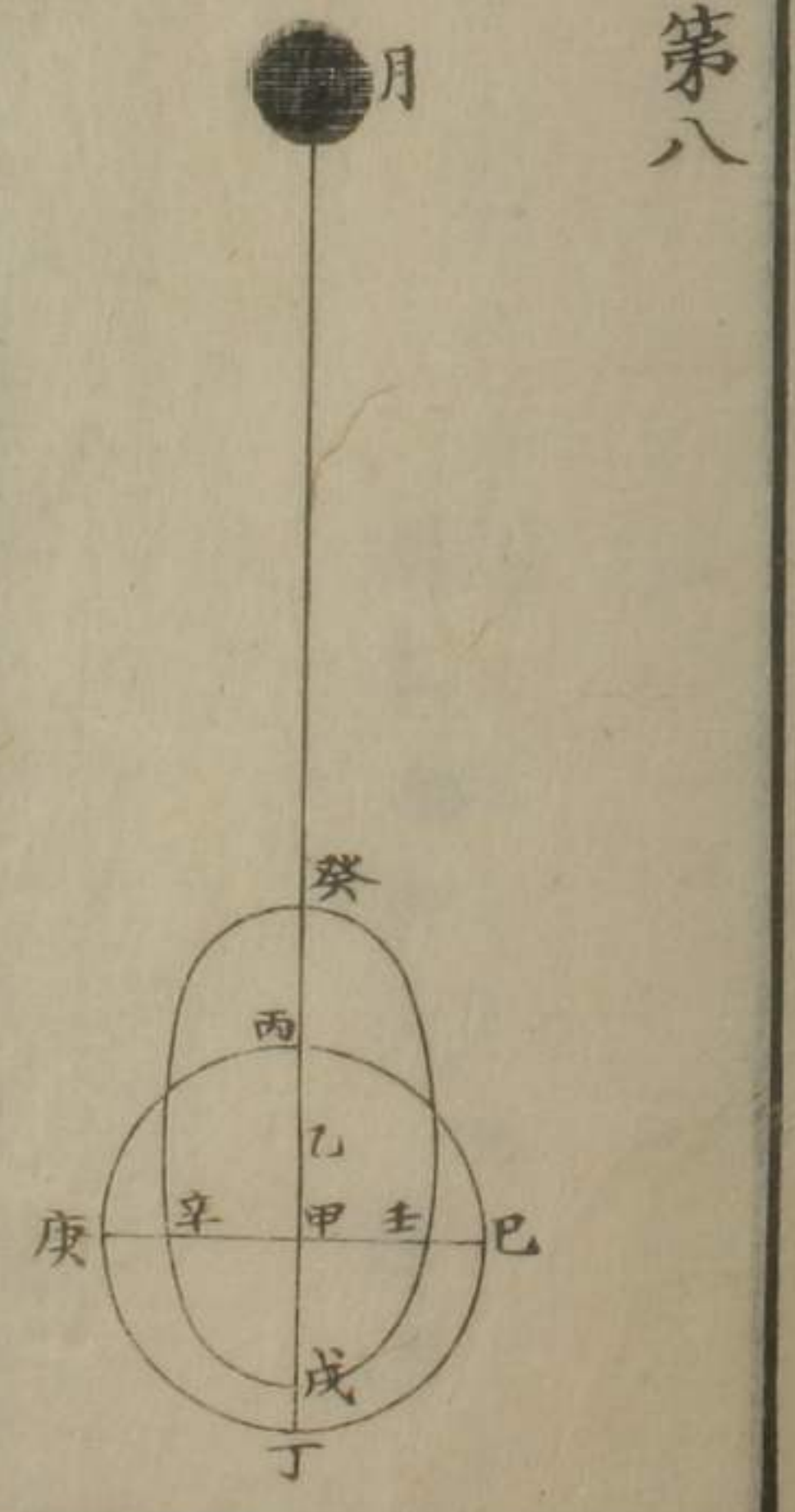


廿九

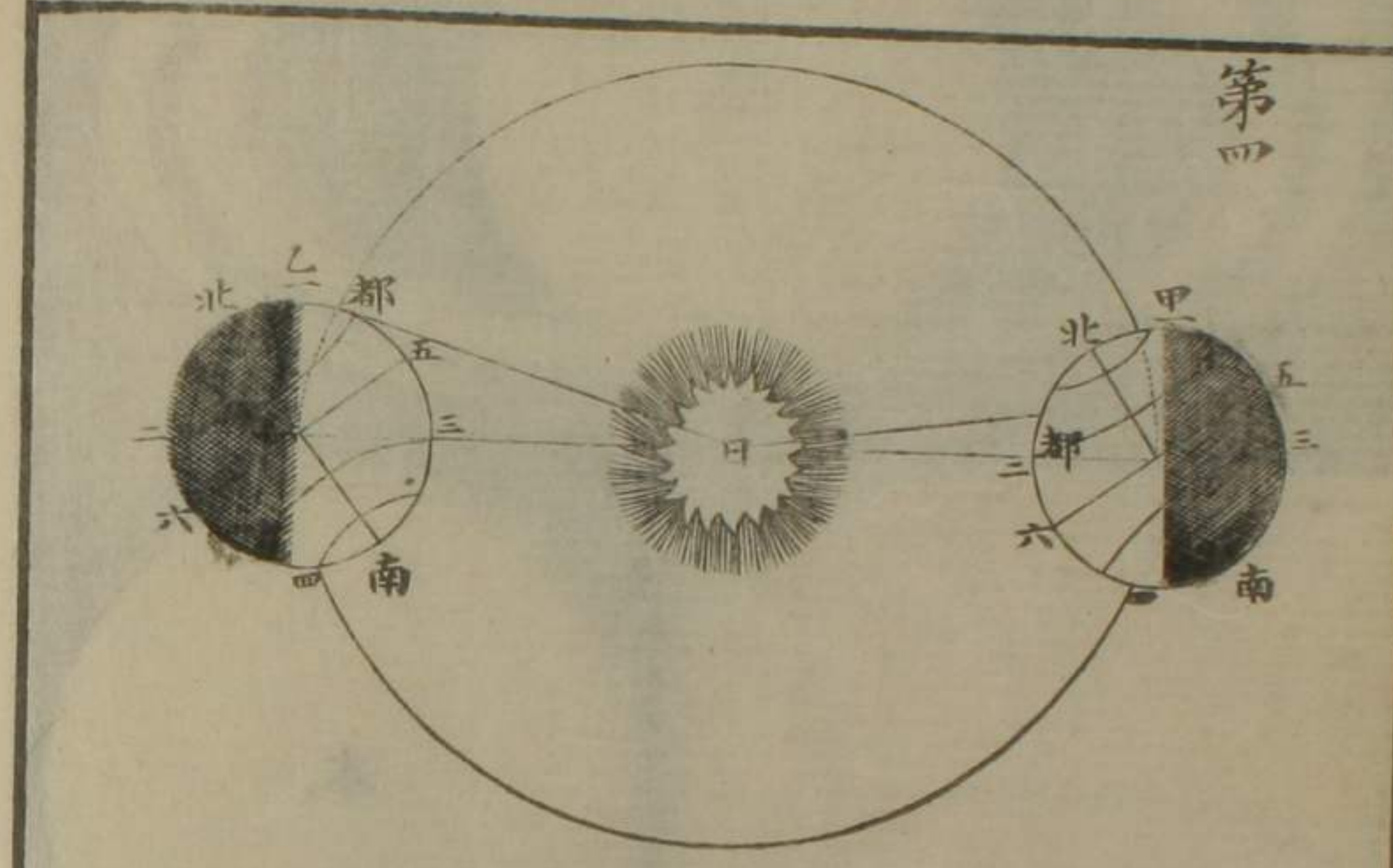
第七



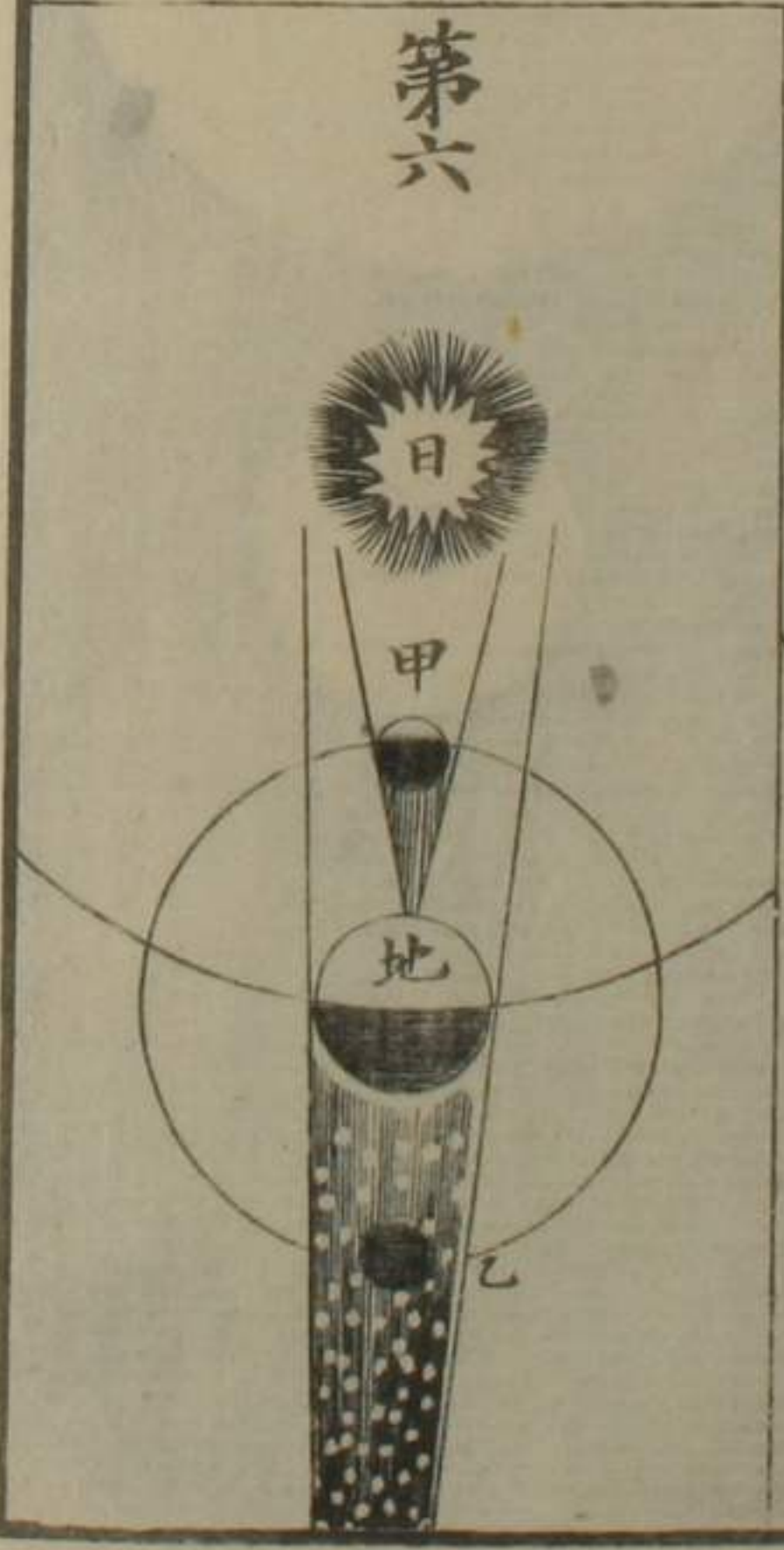
第八



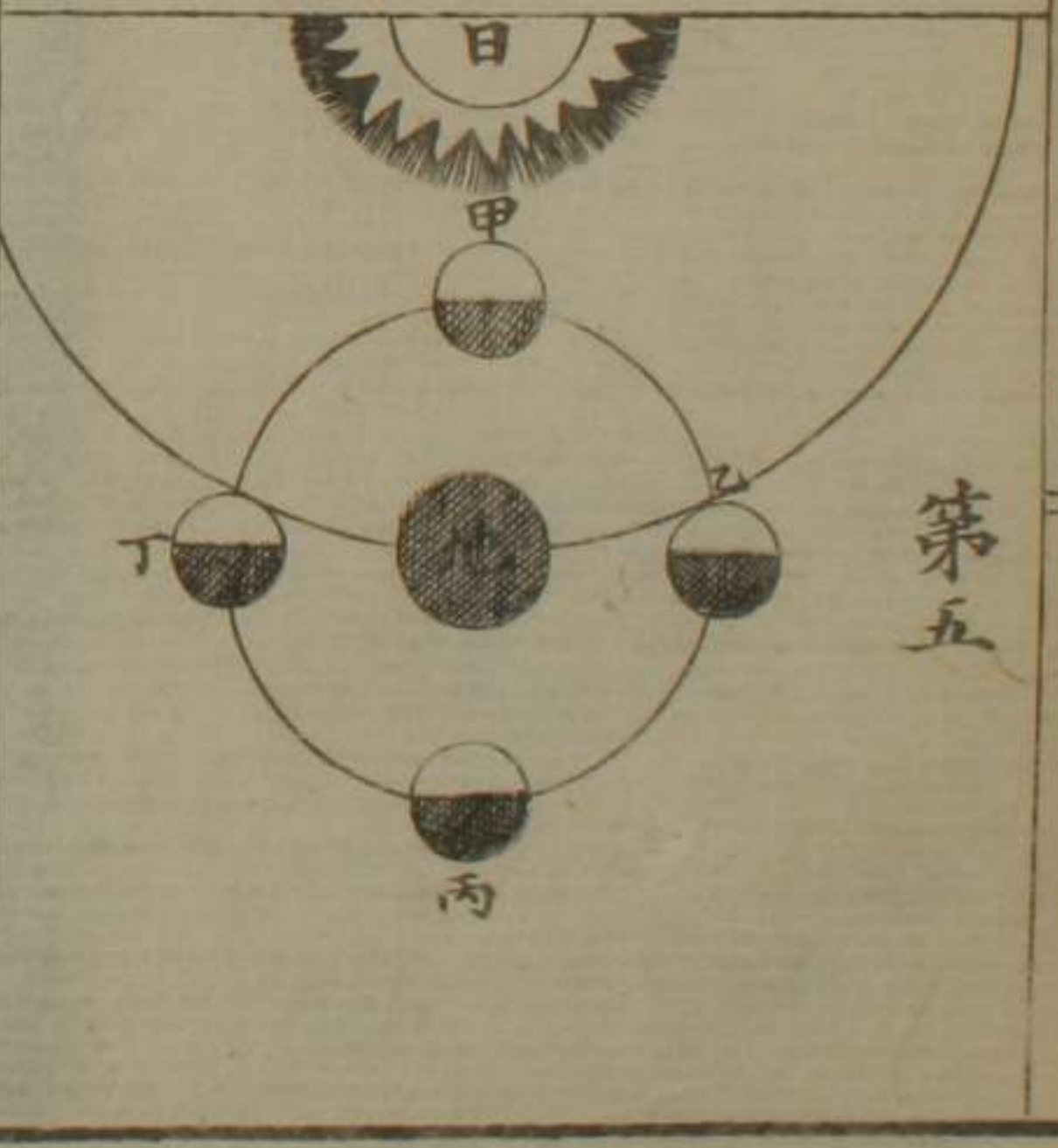
第四



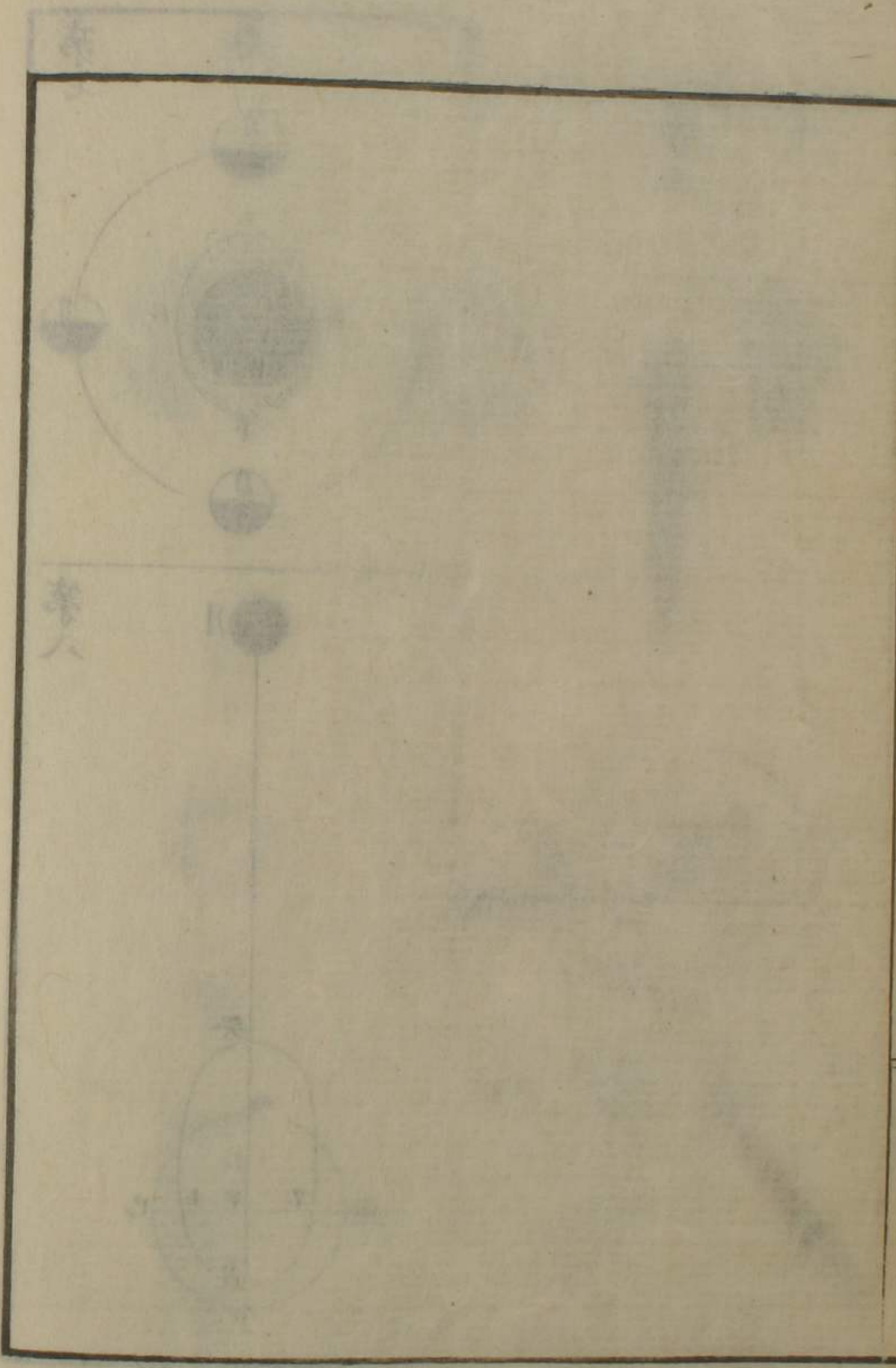
第六



第五



氣母見闕音義
卷四



氣海觀瀾廣義卷五

三田

川本裕幸民 譯述

動

物必有動。動必有變。已有動有變。則必有時有間也。動有遲速。時有長短。間有廣狹。由此以知動之強弱。

コ、ニ膀胱ニ管ヲ具スル者アリ。壓扁シテ靜定スレバ。變アルナシ。今此管ヲ吹テ氣ヲ滿タシムレバ。膨起シテ其形變ス。即動ナリ。手ヲ以テコレヲ壓スルキハ。又一變シテ平匾トナル。是亦動ナリ。更ニ

氣海見聞録

下

一

復コレヲ吹膨シ其管口ヲ緊紮シ凡上ニ置キテコレヲ打テバ其形原ノ如シト雖飛テ地ニ落ツ是亦一變ナリ前ニハ其形變シ後ニハ其處變ス變ハ必動アリ故ニ形處變アレバ必動ヲ兼ヌ動ナケレバ變スルコトナシ全體ノ動モ一分ノ動モ共ニ然リ動ハ即變變ハ即動ナリ此動ヲ知ルニ左ノ目アリ

第一間ナリ動此中ニ成ル間ナケレバ物動クベキ處ナシ

第二時ナリ動此中ニ成ル至微ノ動モ至疾ノ動モ多少時ヲ經ザルコトナシ

凡動アレバ必間ト時トアリ譬へバ球ヲ投セムニハ其動ヲナスベキ間ナカルベカラズ否ザレバ球進ムコトヲ得ズシテ動ナラズ已ニ動アレバ必其始終アリ其中ヲ時トイフ○間トハ物ノ空隙ヲイフ譬へバ室ノ間トハ四壁内席上頂格下ノ空處ヲイフ砂ヲ以テ此空處ヲ填ムレバ各砂粒ノ邊ニ亦間アリコレヲ各分子ノ間トナスガ如シ若シ砂及ビ四壁ヲ除キ去レバ唯空間ノミ物體ノ占スル所ヲ居處トイフ我坐スル處書几ノ在ル處等ハ皆其居處ニシテ室中一分ノ處ナリ而シテ他處ニ移ルコト

氣海觀瀾廣義

卷五

アレバコレヲ動トイフ。○時トハ事ノ發止スル始
 終ノ間ヲイフ。猶一時ト次時トノ間ニ分秒連續シ
 来ルガ如シ。時儀ヲ以テ時ヲ計レバ。此時彼時自長
 短ナレト雖。思慮ヲ以テコレヲ推セバ。或ハ長短アリ
 譬へバ同一事ヲ考へ。勉強シテ止マザレバ。時ノ
 甚短キヲ覺エ閑坐若ハ不寐倦怠スルキハ。其長キ
 ヲ覺ユルガ如シ。○今球ヲ投スルキハ。手ヲ離ル、
 ヲリ落ツルニ至ルマデ。進デ處ヲ變ス。コレヲ動ノ
 處トス。其進ムニ必時ヲ移ス。コレヲ動ノ時トス。其
 進ムニ遲速アリ。コレヲ比較シテ以テ其進行スル

時ト他物ニ抵抗スルカトヲ知ル。○今一球ヲ取り。
 十二尺ヲ隔テ、壁ニ擲テ。而シテ更ニコレヲ一倍
 急ニ擲ツキハ。速ハ前ニ倍シテ。時ハ前ニ半ナリ。譬
 へバ一人ハ甲處ヨリ乙處ニ至ルニ。三時ヲ經。一人
 ハ一倍速ニ走リテ。一時半ニ達スルガ如シ。甲乙ノ
 路ヲ問トシ。三時ヲ時トシ。前ノ一人ノ速ヲ一トス
 レバ。後ノ速ハ二ナリ。若一人ノ速ヲ三トスレバ。後
 ノ速ハ六ナリ。蓋幾許數ヲ用井ルト雖異ナルヲナ
 ク。常ニ速小ナル者ヲ一トシ。他ノ大ナル者ヲ多ク
 スルナリ。問ト速トノ數ヲ乘シテ得ル數ハコレニ

氣母見聞書

卷五

屬シタル時ノ數ニ等シ。是間ト速トヲ以テ時ヲ知
 リ。時ニ速ヲ乘シテ間ヲ知ルユエナリ。譬へハ甲乙
 ノ路ヲ間トシ。一人ノ時ヲ三トシ。速ヲ一トスレバ。
 其間ハ速一ヲ乘シタル三時ニ等シ。假ニコレヲ三
 里トス。他ノ一人ノ速ニヲ一時半ニ乘スルモ亦三
 里トナル。故ニ間ハ時ヲ乘シタル速ニ同シトス。又
 速ヲ以テ一體ノ他體ニ觸ル、カラ知ル。故ニ速カ
 ヲ動カト名ヅク。コ、ニ一片ノ硝子アリ。コレニ向
 テ輕ク一球ヲ擲ツ片ハ。硝子破碎セザルモ。更ニ十
 倍ノカラ以テスル片ハ。其速十倍シテ硝子ヲ破碎

ス。コレヲ以テ動カラ證スベシ。夫ニ物ノ動クニ其
 速相等キ片ハ。動カハ其物ノ重ニ等シトス。又物ノ
 重相等キ片ハ。其カハ速ト相同シ。總ベテ物ノ動カ
 ハ重ヲ乘シタル速ニ同シ。然レ能動ノ物他物ヲ
 衝突スルカノ發見スルハ。其速ノ冪ニ同シ。速ノ冪
 ハ速ノ數ヲ自乘シ。且コレニ其重ノ乘スル者ヲイ
 フ。蓋一物愈重クシテ其動愈速ナレバ。其カ愈大ナ
 リ。是動カハ重ト速トヨリ起レバナリ。夫物ノ動カ
 ハ重ニ速ヲ乘スル者ニ同シトイフハ。譬へバコ、
 ニ十斤ノ彈凡アリ。コレヲ射ルカラ一トナセバ。其

新編海防叢書

卷五

四

カハ速一ヲ乗シタル十ニ同シ。然レ凡其凡二十斤ニシテ。六倍ノ速ヲ以テ射ルキハ。即速六ヲ乗シタル二十ニ同シテ。百二十トナルガ如シ。故ニ速ノ比例ト重トヲ知テ。常ニ速ノ累ヲ取用セバ。以テ動カヲ知ルベシ。又鈍ヲ取テ唯釘上ニ置クキハ。其カハ重ノミニシテ速ナシ。然レ凡急ニ釘上ヲ打ツキハ。重ニ速カヲ合スル者ニシテ。釘ノ木ニ入ルハ其速ノ機動ナリ。コ、ヲ以テ速ノ累ヲ知ルベシ。○物ノ速ニ同ト不同アリ。即人馬等ノ走ルニ始ヨリ緩急ナキハ。同速ナルナリ。時ニ緩時ニ急ナルハ。不同速

ナリ。故ニ同動アリ。不同動アリ。其速次第ニ増ス者ヲ加速動トシ。次第ニ減スル者ヲ加遲動トス。

游動直落斜墜

知動之方有三。一曰物静則不能自動。必由能動而行動。物已動則以同等速力。為一直路。然由能障而静止。二曰物動之カ常同於能動之カ。而見於所向之直路。三曰物動必有同等對抗之カ。

今球ヲ投ゲムト欲スルニハ。先球ヲ把リコレヲ動カシ。而シテ後コレヲ放ツ。己ニコレヲ放テバ。球其手ヨリ受ケタル動ト同キ速ヲ以テ進ム。己ニ一回

此動ヲ得ルハハ重カノコレヲ妨グルナクンバ。直行シテ止ムトナルベシ。然ルニ物ノ飛射スルハ其始直ナリト雖。終ニ下テ地ニ墜ツル者ハ其重カヨリ起ル所ナリ。○凡物ハ抗カニ對シテ動ク者ナリ。馬ノ車ヲ引クガ如キ。車モ亦馬ヲ引クト殆相同シ。若人索ヲ以テ物ヲ引カムニ其索ヲ半ヨリ斷ツハハ其兩端雙方ニ迸飛スルヲ以テコレヲ知ルベシ。コレヲ抗機ト名ヅク。諸機動ノ理コレヲ以テ解スベキ者甚多シ。球ヲ投スルニ其初直行スル者。漸ニ地ノ引カニ引カレテ弧線ヲナシ。終ニ地ニ落

ツルモコレガ為ナリ。若物ヲ高ク投上スルハ其物始引カニ反シテ行クト雖。其速漸ニ減シ。終ニ一タビ靜定シテ還落チ来ル。其落ツルハ速力次第ニ加ハリ。地ニ近ヅクニ隨テ最急ナリ。コレヲ算スルニ。第一時ニ幾許ノ限ヲ經レバ。第二時ハ第一時ニ三倍シ。第三時ハコレニ五倍ス。譬へバ第一時ニ經ル所ノ限ヲ一トスレバ。二時ニ經ル所ヲ四トシ。三時ニ經ル所ヲ九トスルガ如シ。蓋一物甚重クシテ。大氣ニ障ヘラル、ト少キ者ヲ落トサムニ。第一秒時ニ「インランド」名國ノ十五尺。四尺九寸ニシテ我

氣海見圖廣義

卷五

尺九寸一吋

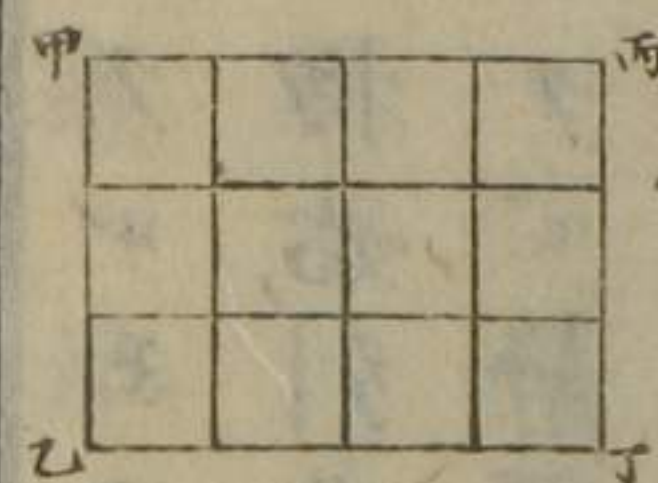
分五釐五毛六 第二秒時ニハ四十五尺 第三秒時ニ
弗ニアタル 第八七十五尺 第四秒時ニハ百五尺ヲ經ルナリ即

一秒時中 十五尺 一限

二秒時中 六十尺 四限ノ十五尺

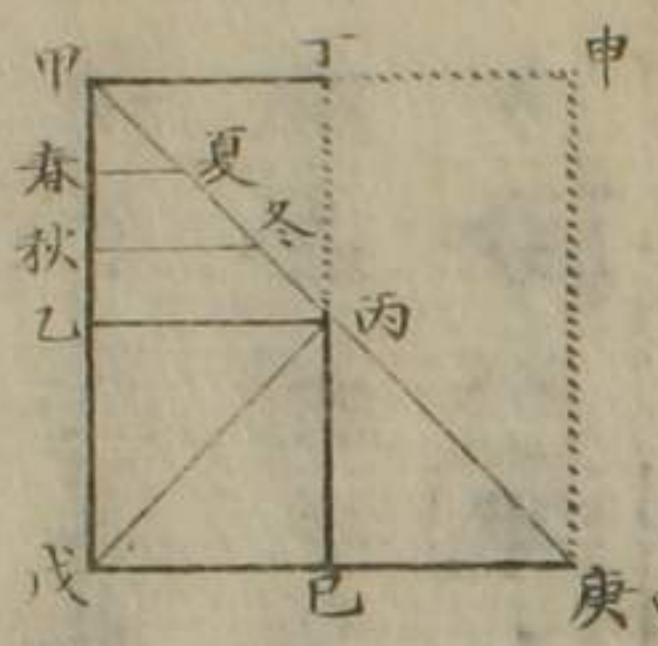
三秒時中 百三十五尺 九限ノ十五尺

此法ヲ以テ算スルニ物ノ經歷スル間ハ時ノ累ニ
應ス。次ノ二圖ヲ見テ其理ヲ悟ルベシ。



即甲乙ノ線ヲ時トシ。乙丁ノ線ヲ速トス
レバ。甲乙丙丁ノ全圖ヲ間トス。甲乙ノ線
ノ長ニ乙丁ノ線ノ長ヲ乘スル片ハ全圖

ノ大ヲナス。即甲乙ノ線ニ三格アリ。乙丁ノ線ニ四
格アリ。此三ニ四ヲ乘スレバ十二トナル。以テ全圖
ノ格數ヲ為ス。故ニ甲乙ヲ時トシ。乙丁ヲ速トスレ
バ。全圖ハ間タルヲ知ル。是ニ於テ左ノ圖ヲ造ル。



夫物ノ高キヨリ落ツルニ其時ヲ甲乙
ノ線トシ。速ヲ乙丙ノ線トシ。甲乙ノ線
ト合シテ直角ヲナストナシ。落初ヨリ

終ニ至ルマデ。速カ相等シトスル片ハ。甲乙丙丁ハ
其物經ル所ノ累ナリ。然レ此速カ必等シカラズ。
物ノ落ツル其始ハ遅クシテ終ハ疾シ。故ニ甲乙丙

丁ノ格ヲ以テ其限ヲ見ハス一能ハス。是甲時ノ始
 ニ在テハ其速カ零ニシテ數ナシ。其後次第ニ加ハ
 リ。乙ニ来レバ乙丙ノ線ヲナス。若甲ヨリ乙ニ至ル
 マデ其速漸漸増加シ。乙丙トナルハ必春夏秋冬
 ノ小線ニ從テ下リ。常ニ甲丙ノ線ニ接シ。其經歷ス
 ル分ハ甲乙丙丁ノ半ナル。甲乙丙トナル。又第二時
 ニシテ乙戊ニ来ルハ乙丙ノ速長ヲ増シテ戊庚
 ニ至ル。甲ニ於テ始マルハノ如シ。經歷スル分ヲ
 乙戊庚丙トナス。是三箇ノ三角形ニシテ其大各甲
 乙丙ノ三角ノ大ノ如シ。甲戊庚ノ三角ハ二時中ニ

經歷スル分ヲ著スナリ。此ノ如ク下ル一益遠シト
 雖。此三角形ヲ増シ加ヘテ。物體墜下ノ測法ヲ知ル
 ベシ。初時甲乙ニ經ル分ハ甲乙丙ノ三角ヲナス。第
 二時乙戊ニハ乙丙戊丙戊己丙己庚ノ三角ノ三角
 ナシ。全二時ニハ此四箇ノ三角ヲナス。烽火及ビ
 鞠球ノ昇ル一愈高クシテ。行ク一愈緩ク。下ル一愈
 卑クシテ。落ル一愈急ナルヲ見。以テ此理ヲ悟ル
 ベシ。○ヲ、ニヨク旋轉スル滑車アリ。コレニ索ヲ
 掛ク。兩端ニ同量ノ錘ヲ繫クル。第一圖ノ如シ。甲
 ノ滑車ヲ越エテ乙丙ノ錘ヲ垂レ。互ニ高下アル一

ナカラシメ。而シテ**乙**ニ一小重ヲ加フルキハ。其平均スル者忽敗レ。**乙**錘**丁**戊ノ尺度ニ從テ下ル。始ハ至緩ニシテ漸漸速ヲ増ス。一ヲ見ルベシ。唯一錘ヲ掛クルモ落下スルヲ徴スベシト雖。コ、ニ兩錘ヲ掛クル者ハ。落勢ヲ緩ニシテ見認メ易カラシメムカ為ナリ。試ニ一錘ヲ落トサバ。其速ナル。一眼目ノ及フ所ニアラサルヲ見ルベシ。而シテ此兩錘ノ重不同ナル。一兩錘全量ノ一分ニ居ルキハ。此過重ノ為ニ一錘墜下スル。一重カノ法ニ從テ。而シテ輕キ方ノ一錘ハ自己ノ重カニ反シテ引舉セラル。ア

ンゲリア國ノアトオト氏此理ヲ以テ一器ヲ創造シ。落體ノ動ヲ驗セリ。其法**乙**ノ錘ハ六錢アリ。**丙**ノ錘モ亦六錢アリ。**甲**ノ滑車ノ摩軋スル抗カヲ八錢トシ。兩錘ニ各二十一錢半ノ重ヲ加フルキハ。各二十七錢半トナリ。兩錘合セテ五十五錢ナリ。コレニ滑車ノ抗カ八錢ヲ合セテ六十三錢トナル。故ニ六十三錢ノ動アルナリ。**乙**ノ錘ニ一錢ヲ増セバ。全量六十四錢トナル。即**乙**ハ二十八錢半。**丙**ハ二十七錢半。滑車ハ八錢ナリ。今**乙**ニ全量六十四分一ノ過重アリ。**丙**ノ錘ハ引舉セラルト雖。六十四分ノ六十三

ノカラヲ以テ乙ノ錘ニ抗ス。故ニ乙ノ錘ハ六十四分
一ノカラヲ以テ落ツ。即全速ノ六十四分一アルノミ。
○一物空中ヨリ落ツル片ハ。初秒時間ニアングリ
ア國ノ百九十二拇。即上ニ載スル十五尺ナリヲ經。此器
ニ添ヘタル尺度ハ。此度数ヲ刻ス。而シテ此錘ノ速
ハ空ヨリ落ツル速ノ六十四分一ヨリ多カラズ。故
ニ百九十二ノ六十四分一ヲ經ルノミニシテ。即三
拇ナリ。コノヲ以テ初秒時ニ乙ノ錘唯三拇ヲ下リ。
二秒時ニ八十二拇。三秒時ニ八二十七拇ヲ經ルナ
リ。此器ヲ以テ墜下ヲ測ル法ヲ詳ニスルニ。簡便ナ

ル規則アリ。

第一體已ニ落チテ後。其落ツル片受ケタル速ヲ以
テ平面上ニ直行スル片ハ。落チタル時ト同時中ニ
一倍ノ路ヲ過グ。又速ハ前圖ノ戊庚ニシテ時ハ甲
戊ナル片。經過スル分ハ甲戊ニ戊庚ヲ乘スル者ニ
同シ。故ニ全圖ノ甲戊庚申トナル。即前ニ經タル分
ノ甲戊庚ニ倍スル者ナリ。

第二斜面上ヲ轉降スル片モ亦同シ。コノニ一球ア
リ。斜板上ヲ轉降スル片ハ。其速次第ニ加ハル。然レ
凡此板ノ抗カニ障ヘラレテ游放直落ノ如ク速ナ

ルヲ得ズ。第二圖ヲ見テ其差ヲ知ルベシ。一球ヲ
 取テ甲ヨリ放チ直ニ下テ乙ニ至ルニ。一秒時ヲ經
 ルニ別ニ甲ヨリ放テ斜板ノ甲丙ヲ落ッルルハ丁
 ヲ過グルヲ能ハズ此丁ノ處ヲ知ラムト欲セバ斜
 線甲丙上ニ方テ直角ニ乙丁ノ線ヲ引クベシ。
 第三金石モ羽毛モ其落ッルヲ共ニ相同シ。重力ノ
 機ハ物ノ輕重ニ拘ラズ。他ニコレヲ支障スル物ナ
 ケレバ其速皆同じ。或ハ言ハム羽ハ固輕クシテ下
 ルヲ緩ク。金石ハ重クシテ墜ッルヲ急ナリ。誰カ能
 クコレヲ信セムト。是別ニ支障スル物アリテ其墜

下ヲ妨グルヲアルヲ知ラザルナリ。夫大氣ハ能ク
 物ノ墜下ヲ障フ。故ニ物ノ墜ッル必大氣ヲ排ス。而
 シテ物重ケレバコレヲ推排シ易ク。物輕ケレバコ
 レニ障ヘラレ易シ。故ニ金石ハ急ニ下リ。羽毛ハ徐
 ニ下ル。又水中ニ物ヲ投スルニ。金石ハ急ニ沈ミ。瓦
 土ハ水ヲ排スルカ弱キラ以テ緩ナリ。又排氣鐘内
 ニ於テ金貨ト一毛トヲ同時ニ落トセバ。二物同速
 ニシテ共ニ器底ニ落ツ。以テコレヲ證スベシ。○又
 別ニ注意スベキヲアリ。蓋地球ハ正圓ナラズ。南北
 兩極邊少ク平扁ニシテ。梨子狀ノ如シ。故ニ兩極下

邊プノラインドウクニケラノ地ハ中心ニ近ク晝夜平線
 下ベトリユゴイ子オ各國等ハ中心ニ遠シ此中心ハ引
 カノ會スル所ナルヲ以テ兩極邊ハ晝夜平線下ヨ
 リモ引カ強盛ナルガ故ニ物ノ墜ツルヲ急ナリ即
 北極邊ニ於テハ一秒時間ニフランス國ノ十五尺
 同レイン前ニ見トノ尺千分尺ノ百十七ノ高ヲ落チ晝
 夜平線下ニ在テハ十五尺萬分尺ノ五百十五ノ高
 ヲ落ツルナリ
 物之落有曲直可以垂球之動而推焉
 夫物ノ落ツル二秒時中ニハ初秒時ニ四倍シ三秒

時中ニハ九倍シ四秒時中ニハ十六倍シ按スルニ
 似タ終ニ地ニ落チテ平坦ナル磚上ニ直行スルキ
 ハ其路落チタル高ニ倍スコレヲ常則トス又物ノ
 斜面上ニ轉落スルキモ漸漸急下スルヲ直落ニ同
 ジト雖其少差アルヲ第二圖ノ如シ一球ヲ甲ヨリ
 丙ニ落トシ他ノ一球ヲ甲ヨリ乙ニ落トス甲乙
 ハ斜面ノ高ナリ直落ノ球乙地ニ至ル片斜落ノ球
 ハ丁ニ来ル然レ片斜落ノ球丙ニ来ル片其速ハ直
 落球ノ乙ニ来ルカト相同シ今直落球一秒時間ニ
 甲ヨリ乙ニ来リ直ニ平坦ナル磚上ニ行ク片ハ一

秒時間ニ其速 **甲乙**ノ倍路ヲ經故ニ **甲**ヨリ斜落ス
 ル球ノ三秒時ヲ經テ **丙**ニ來ルキ直落球ノ一秒時
 間ニ平坦ナル磚上ニ行テ **甲乙**ニ倍ノ路ヲ過グル
 ノ速ニ同ジキカラ得ルナリ。又曲リタル凹算ヲ以
 テスルモ亦コレニ同ジ。是曲線ハ元幾多ノ小直線
 ノ集マル者ナレバナリ。此故ニ曲算ヲ下ル所ノ球
丙ニ至レバ一秒時間 **甲乙**ヲ直下スル時ニ **甲乙**ニ
 倍スル平坦ナル磚上ヲ過グル速ヲ得ベシ。此傾斜
 ノ狀曲直ニ拘ラズ其落下ヲ妨ゲザレバ其球 **丙**ニ
 至ルノ速ハ皆直落球ノ **乙**ニ至ルキノ速ニ同ジ。是

凹溝ト直算ヲ設ケタル板臺ヲ以テ試ムベク。又時
 儀ノ垂球ヲ見テ考フベシ。垂球ハ銅錠ノ末端ニ大
 ナル銅球若ハ銅板ヲ掛ケ其一端ヲ釘ニ懸ケテ自
 在ニ旋轉スベカラシム。此處ヲ動點ト名ヅケ。此ノ
 如ク製スル者ヲ複垂球トイフ。然レモ今コトニ單
 垂球ヲ舉ゲテ其理ヲ解スベシ。銅若ハ鉛球ノ適好
 重大ナル者ヲ細線ニ繫ギテ釘ニ懸ケ務メテ其線
 ヲ細クシ。球ノ重ニ比シテコレヲ算スルニ足ラザ
 ラシメ。以テ其旋轉スル狀ヲ見ルベシ。此球ノ一升
 一降ヲ全振ト名ヅケ。其球ノ重心ヲ振點 **一**ニ垂球

點ト名ヅク。此點ト動點トノ間ヲ垂球ノ長トス。此
 器ノ一升一降スルハ其降ルキ受ケ得タル速ヲ以
 テ外ルナリ。若此器摩軋ノ障ナク。大氣ノ抗拒ナケ
 レバ其升ル一降ルト度ヲ同クスベク。且一タビ動
 キテ後ハ終ニ止ム一ナカルベシ。蓋此球ノ降下ス
 ルハ猶撓ミタル寬ニ球ヲ走ラシムルガゴトシ。球
 ノ動點ニ懸カリテ落チザルモ。球ノ寬中ニ坐スル
 モ其理異ナル一ナシ。譬へバ第二圖ノ甲乙ノ線ノ
 如シ。其正中戊ヨリ甲乙ニ至ルマデ一半規ヲ畫ス
 ルニ。此半規ハ常ニ丁ニ中タルガ故ニ其線ノ斜面

上ニ接スル處ヲ見レバ他ノ球甲ヨリ乙ニ降ル間
 ニ。此球ノ斜面上若ハ撓ミタル寬中ニ走ルノ幾許
 遠ナルヲ知ルベシ。即此圖ノ丁ニ於テ見ルガ如シ。
 今此圖ヲ倒置シ。甲戊ヲ垂球トシ。戊ヲ其繫クル所
 ノ釘トシ。此垂球丁ニ升リ甲ニ落チテ半振ヲナス
 トスルキハ他ノ球ノ甲ヨリ丁ニ來リ。此圖ノ丁ヨ
 リ甲ニ至ル間ニ直落スル物ハ甲ヨリ乙ニ至ルガ
 故ニ垂球ノ丁ヨリ下テ甲最下ニ至リ半振ヲナス
 間ニ他物ハ大凡甲乙ノ高ヲ落ツ。即甲戊ノ倍ニシ
 テ垂球ノ二倍許ナリ。○或問フ直落スル物ハ丁甲

垂球半ニ倍セル甲乙ヲ落ツ。然ルキハ物直落スル
 振ノ長ニ倍ストイハ。單直ニシテ明ナラ
 カハ垂球ノ振ニ倍ストイハ。單直ニシテ明ナラ
 ム。曰ク否。垂球甲乙ノ直線ヲ行ケバ正シク直落ニ
 半スト雖。丁甲ノ間曲テ弧ノ如シ。以テ少差ヲナス。
 コレヲ算スルニ垂球ハ一秒時ノ十四分ノ十一間
 ニ一振ス。然ルニ垂球全一振スル間ニ一物直下セ
 バ。其高ハ垂球ニ八倍ス。誤テ四倍ト思フベカラズ。
 譬ヘバ垂球ノ初秒時ノ半振ハ直落ニ比スレバ其
 半ナルガ故ニ。二秒時ノ直落ハ初秒時ニ四倍スル
 ヲ以テ。垂球ノ長ニ八倍スルヲ得ルナリ。又一物

直下スルキハ。第一秒時ニ四寸九分九釐ニ
 國ノ十五ヲ經ルト定ムルキハ。一秒時間ニ一振ス
 尺ナリ。ル垂球ノ半振スル間ニ。直下スル物ハ垂球ノ長ニ
 倍ヲ經。全振スル間ニハ八倍ヲ經ル。已ニ前ニイ
 フガ如シ。故ニ垂球ノ長ハ四寸九分九釐ノ八分一ニ中
 タル。即六寸一分ナリ。而シテ曲線ニ從テコレヲ算
 スレハ。十四分秒時ノ十一ノ一秒時ニ於ケル。六寸
 一分ノ垂球ノ本長ニ於ケルガ如シ。蓋間寸ノ長ハ
 フライハ時ノ幕ニ應スルガ故ニ。其秒數ヲ自乗スレ
 バ則其比例左ノ如シ。

一六一 一六六 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 二〇〇

此算法ハ百九十六^十分ノ百二十一^十一ヲ第一率トシ。秒數ソ一ヲ第二率トシ。六十一^一即六^一掌ヲ第三率トスル者ナリ。而シテ其第四率ハ即求ムル所ノ垂球ノ本重ニシテ。大約九掌八拇八線許ナリトス。コレヲ以テ一秒時ニ全振スルニハ。幾許高ナルヲ知ルベク。又垂球ノ振ヲ以テ物ノ墜下ヲ算スベシ。即垂球ノ一振中ニ落ツル物ハコレニ八倍スルガ故ニ。物ノ落ツル^一我邦ヨリ多少緩急アル地方ニ於テハ。垂球ノ振モ亦多少アル^一明ナリ。夫地球

ノ兩極ト晝夜平線下トハ。物ノ落ツルニ遲速アリ。一時若ハ多時中ニ同長ノ垂球幾多ノ振動ヲナスヲ精驗セムニ。兩極邊ハ赤道下ヨリ多キヲ以テ。物ノ落ツルモ亦當ニ速ナルベキヲ知ル。以テ赤道下ト兩極規下ト物ノ落ツル差アルヲ驗スベシ。但當ニ詳ニ金屬ノ縮張ニ注意スベシ。○物墜下スルニ方テ漸漸速ヲ増ス。故ニ人高處ヨリ落ツレバ痛傷甚劇ク。斜面ニ從テ下レバ損傷ナシ。又霰石等ノ下ルモ。其高卑ニ從テ遲速アリ。又垂球ヨク時儀ノ機ヲ整ヘテ。其機緩ナレバ其球ヲ高クシ。急ナレ

バコレヲ低クスル等ノ理皆以テ悟ルヲ得ベシ。

復動

ニカ以上聚以動物。是謂復動。推其所行。以知其所動。

コ、ニ球アリ。投スルニ一手ヲ以テスルハ。單カラ以テスルナリ。投スルニ兩手ヲ以テスルハ。複カラ以テスルナリ。第三圖ノ如ク。一手ヲ以テ球ヲ投シ。
甲ヨリ乙ニ至ラシムレバ。甲乙ノ直線ニ從テ行ク。是單動ナリ。第四圖ノ如ク。一手ヲ以テ一方ヨリ推シ。他ノ一手ヲ以テ他ノ一方ヨリ推シ。兩手カラ齊クシテ。一球ヲ左右ヨリ相推ス。此ハ。球其處ヲ移サ

ズ。然ルニ第五圖ノ如ク。一手ヲ以テ甲ノ球ヲ乙ニ向テ推シ。一秒時ニコ、ニ達セシメムトシ。又更ニ他ノ一手ヲ以テ甲ヨリ丙ニ向テ推シ。亦一秒時ニコ、ニ達セシメムトスル。此球乙ニモ丙ニモ向ハズシテ。其中間ノ丁ニ趣ク。即甲乙ト甲丙トノ線ヲ引キ。甲乙ニ對シテ丙丁ノ線ヲ引キ。甲丙ニ對シテ乙丁ノ線ヲ引テ。以テ甲ノ球一秒時ニ丁ニ至ルヲ見ルベシ。又第六圖ノ如ク。薄板ヲ四分シテ線ヲ畫シ。甲ヨリ丙ニ向テ蟲ヲ行カシメ。同時ニ此板ヲ下シテ乙ニ至ラシムルニ。蟲行テ一ニ來リ。板下

テ壹ニ至ル片ハ蟲丁ニアリ。蟲二ニ来リ。板貳ニ下
 レバ。蟲戊ニアリ。又蟲三ニ来リ。板亦下テ參ニ至レ
 バ。蟲癸ニアリ。蟲終ニ四丙ニ来リ。板亦肆乙ニ下レ
 バ。蟲庚ニアリ。蟲此斜線ノ甲庚ヲ過グル。第五圖
 ノ說ノ如シ。故ニ物ヲ動カスニ。二カ向フ所ヲ異ニ
 スレバ。物必兩間ノ角線ヲ行クナリ。試ニ鉛丸ヲ取
 リ二線ニ繫ク。第五圖ノ如クシ丸ヲ甲ニ置キ。一
 線ヲ以テ乙ニ向テ引キ。同時ニ他ノ線ヲ以テ丙ニ
 向テ引ク片ハ。丸丁ニ行ク。甲丙甲乙ノ兩カ共ニ一
 物上ニ集マレバ。其勢ハ甲丁ノ線ノ如シ。甲乙ノ大

ハ丙丁ニ同キガ故ニ。甲丙丁ノ三角中。甲丁ノ一カ
 ハ甲丙丙丁ノ趣向アルニカニ同シコ、ヲ以テ一
 カ斜ニ一物ヲ動カス片ハ。其物ヲ他處ニ進ムル。一
 幾何ヲ知ルベシ。譬へバ第七圖ノ如シ。甲乙ハ斜放
 セル紙鳶ナリ。風丙丁ノ線ニ從テ吹ク。此線ハ動力
 ノ向フ所ニシテ。他ノ線ニ比較スレバ。コレヲ大ニ
 シコレヲ小ニスル。一意ニ隨フベシ。此線ヲ以テ風
 勢ヲ定ムル片ハ。直角ノ丙丁戊ヲナス。即丙丁ノカ
 ハ丙戊ト戊丁ヲ合スル者ニ同シ。丁戊ハ紙鳶ヲ斜
 ニ空中ニ飛揚セシムルカニシテ。戊丙ハ其カノ紙

爲ニ從テ走リ去ルヲ知ルベシ。又第八圖ノ如キ
 格木 **甲乙** アラムニ。其中間 **丙** ニ方テ **丙丁** ノ杖ヲ以
 テコレヲ衝クハ **甲乙** ノ木直ニ **戊** ニ向テ進ム。是
丙丁 ノカラテ **丙戊** ノ線ニ趣カシム。然ルニ第九
 圖ニ於ケルガ如ク **丙丁** ノ杖ヲ以テ **丙** ヲ推シ斜ニ
丙丁 ニ從ハシムルハ **丙丁** ノカハ **丙戊** 及ヒ **戊丁**
 ノカラ合スル者ニ等クシテ。此木 **巳** ニ向フヲ見レ
丙戊 ノカノミヲ以テ木ヲ **巳** ニ向テ動カシ **戊丁**
 ノカハ木ニ從テ脱失スルヲ知ル。然ラザレバ **戊**
丁 ハ木ヲ **甲** ニ向テ動カス所ノカタリ。此圖ノ如ク

木ヲ **巳** ニ進ムルニ斜ナルカラテスルモ **丙戊** ノ
 單カラ用井ルニ異ナラズ。又第七圖ノ紙鳶ノ如キ
 乙 **戊巳** ノ線ヲ正直ニ **丙丁** 上ニ引クハ **戊巳** **巳丁**
 ハ其カニシテ **戊丁** ノカニ同シ。故ニ **戊巳** ノカハ紙
 鳶ヲ高昇シ **戊丁** ハコレヲ後ニ推スヲ知ル。即風
 ノ帆ニ於ケル。水ノ楫ニ於ケル。流水ノ浮橋ニ於ケ
 ル。皆此理ニ同シキヲ知ルベシ。○又コノニ一游
 動アリ。第十圖ノ如ク。平坦ナル上ヨリ球ヲ彈キ
 テ凡外ニ飛バスキハ。其路必弧狀ヲナス。是亦二カ
 ヲ以テ落ツル者ニシテ **甲** ヨリ彈クカハコノ球ヲ

乙丙ヨリ子ニ向テ進ムル勢アリ然レ凡ルヲ離ル
 レバ自己ノ重カノ為ニ漸漸墜下ス此球四秒時ニ
 四尋ヲ過キテ丙ヨリ子ニ至ルトシ其間緩急ナキ
 凡ハ第一秒時ニ一ニ至ルベシ然レ凡ル重カノ為ニ
 丙ヨリ下テ一ニ至ルトスル凡ハ丙丑ノ角線ニ隨
 テ丑ニ至ル今球丑ニアリ手ノ彈カコレヲ辰ニ輸
 ス勢アリ然レ凡ル重カノ為ニ下ル初秒時ニ二倍
 シテ巳ニ至ルベシ故ニ復角線ニ從テ丑辰ト丑巳
 トノ間ヲ過ギテ丑ヨリ寅ニ至ル第三秒時ニハ球
 ヲ千ニ輸スベキニ重カハ初秒時ニ五倍スルヲ以

テ未ニ來ルベシ故ニ球其中間ヲ經テ寅ヨリ酉ニ
 至ル第四秒時ニハ球ヲ戌ニ輸スベキニ重カ初秒
 時ニ七倍シテ申ニ來ルベシ故ニ復其兩間ヲ過ギ
 テ卯ニ至ル此丑寅酉卯ノ間ニ尚千萬ノ此ノ如キ
 小線アリテ集マリテ弧狀ヲナス者ナリトシコレ
 ヲ圭竇線ト名ヅク○彈丸ノ如ク斜ニ氣中ヲ飛ブ
 者亦コレニ同シ第十一圖ノ如キ凡ル飛ブト愈遠ケ
 レバ其重カノ為ニ一三ノ線ヲ距ルト愈多シ昇テ
 四ニ至ルニハ行クヲ次第ニ遅ク四ヨリ下テ五ニ
 至ルニハ漸速ニシテ圭竇線ノ一四五ヲナス故ニ

大氣其飛行ヲ妨グルト甚シカラザルキハ預其凡
ノ達スル所ヲ察スベシ。若大氣少モコレヲ妨ゲズ
バ。必常ニ的中シテ。分釐ヲ違フコトナカルベシ。今
ヲ砲口トシ。五ヲ塔トシ。其間ノ距離ヲ知り。一ニ
一定量ノ火藥ヲ以テ。柘榴彈ヲ直ニ射上スル高ト
シ。此兩距度ヲ知テ。以テ一五及ビ一二ノ線ヲ定ム。
此一ニノ線上六ノ點ヨリ半圓規ヲ畫シ。一五ヲ四
分シ。其一分ノ春ヨリ一直線ヲ引キ。三ニ方テ半環
ニ接ス。此三ヲ貫キタル一三ノ線ハ斜射ノ所趣ニ
シテ。五ノ塔ヲ射中ツベシ。此射法ハ一五ヲ一三ノ

倍トシ。一六ノ四倍ニ等シトス。是最遠ノ射度ナリ。
又七ニ塔アリトシ。一七ヲ四分シ。一八ヲ其一分ト
シ。八ヨリ直ニ八九ノ線ヲ引ケバ。此接線ヲ貫キテ
引キタル一五ノ斜線ハ。砲ノ所趣ニシテ。一七ニハ
柘榴彈ノ路ナリ。而シテ九ノ點ハ柘榴彈ノ最高ナ
ル土ノ點ニ等シ。最下ノ接點十五ヲ貫キ引キタル
一六ノ線ハ。七ノ塔ヲ射中ツル所趣ニシテ。實凡ヲ
放ツニ用井。前法ハ柘榴彈ニ用井ル。一。砲家ノ常則
ナリ。○能ク此篇所説ノ義ヲ詳ニセバ。疾進スル車
上ヨリ後ニ向テ跳ルルキハ。地上ニ顛倒シ。堤ニ浴テ

走ル船ヨリ陸ニ上ラムニ必其思ノ處ヨリ前ニ上
 リ帆ヲ揚ゲテ走ル船ノ櫓ヨリ球ヲ落セバ櫓ヲ離
 レズ又疾走スル船ヨリ直ニ高ク球ヲ投ズレバ再
 其手ニ落チ来リ疾轉スル地球上ヨリ彈丸ヲ直ニ
 高ク放ツニ其砲ノ近傍ニ墜チ豆ヲ拵指ト次指ニ
 テ推壓スレバ直ニ飛ビ又同風ニ乘シテ船ヲ諸方
 ニ行リ楫帆ヲ操テ逆風ニ走リ楫艦ヲ左右シテ舟
 直行シ尾ヲ左右シテ魚直行シ遠キ的ヲ射ルニハ
 砲口ヲ高クシ柘榴彈ハ所趣ヲ高クシ實丸ハコレ
 ヲ低クスル等ノ理皆推シテ知ルベシ○凡物體ニ

感スルカラ記スルニハ線ヲ以テス第十二圖ノ如
 キ一球アリ一手ヲ以テ一秒時ニ甲ヨリ丙ニ至ル
 ノカラ以テコレヲ衝キ又他ノ一手ヲ以テ同等ノ
 カニテ一秒時ニ甲ヨリ乙ニ至ラシムル片ハ甲丙
 及ビ甲乙ノ線ハ同時中ニ經歷スル路ニシテ勢カ
 自相同シ又物ヲ打ツニ其カ強ケレバ其物行ク
 遠ク且コレヲ記スル線モ亦隨テ長シ故ニ線ハ諸
 カヲ記シテ物ノ經路ヲ示ス者ナリ即第十三圖ノ
 如シ甲某ハ此球ヲ打テ一ヨリ二ニ進マシメ乙某
 ハ倍カラ以テスレバ一二ニ倍セル三四ノ路ヲ過

グ是自然ノ理ナリ。

中心カ

中心カ一名求心カ。諸游星巡太陽皆因焉。

中心トハ物體ノ正中引カノ聚マル所ニシテ中心カハ即引カナリト雖コ、ニ別ニ此篇ヲ掲グル者ハ蓋遠心カト相併テ其作用ヲ顯スノ理ヲ示サムガ為ナリ。今一絲端ニ石ヲ繫キ而シテ他ノ一端ヲ取り急ニコレヲ振轉シテ放ツルハ飛ビ去ルト遠シ。第十四圖ノ甲乙ハ垂球ニシテ丙ハ球ノ在ル所ナリコレヲ輪轉シ乙ニ方テ索ヲ解放スレバ乙ヨ

リ丁ニ進テ甲乙ト乙丁ト直角ヲナス然ルニ第十
 五圖ノ如ク垂球乙ヨリ丁ニ進ム勢アリト雖甲乙
 ノ索固持シテ放タズ故ニ乙ヨリ丁ニ進ムカト甲
 ヨリ乙ヲ引クカトノ間ヲ取テ角線ノ乙丙ヲ畫シ
 終ニ圈ヲナス乙甲ノカヲ求心カカ引ト名ヅケ乙丁
 ノカヲ遠心カカ張ト名ヅク球ヲ急轉シテ索ノ斷ス
 ルトアルハ遠心カヨリ起ルナリ濕地ヲ疾行スル
 車輪ヨリ泥土ノ飛散スルモコレガ為ナリ又壘半
 ニ水ヲ充テ索ヲ以テ其頭ヲ繫リコレヲ提ゲテ壘
 ヲシテ傾斜スルト勿ラシメコレヲ輪轉スルニ水

海防圖說

卷五

少モ漏出スルヲナシ。蓋此壘顛倒スト雖漏ラザル者ハ中心カニ因ル。即壘項ヲ提ゲタル手ハ中心ニシテ水ニハ中心ヲ離ル、カ遠心アリ。故ニ水常ニ壘底ヲ壓シテ其口ニ向ハザルナリ。○二液重ヲ異ニスル者ヲ一壘ニ収メ、コレヲ輪振スルハ、重キ者ハ口ニアリ、輕キ者ハ底ニ降ル。又馬ニ騎リ疾ク輪走スルハ、人身正直ナラズ、簸中ノ穀環旋スレバ周邊ニアリテ、其糠ハ中心ニ聚マリ、人疾走スルハ、其足地ニ全ク著カズ。或ハ獨樂其心ヲ環テ倒レザル等、皆中心カヨリ起ル所ニシテ、環旋スル物

皆此ノ如シ。○又、ニ中心カヲ算定スベキ規則アリ。夫二物中心ヲ輪環スルニ同距同速ナルハ、其中心カハ其體ノ重即體質ニ同シ。譬へバ甲球ハ六錢ニシテ、乙球ハ十二錢ナルハ、其兩カハ猶六ト十二トノゴトクニシテ、甲球ノカハ乙球ノ一倍ナルベシ。若ニ體同重ニシテ同時ニ巡ルハ、其兩カハ各體ノ距離ニ等シ。即一倍長キ索ニ掛カリテ巡ル者ハ、其中心カモ亦一倍ナルベシ。若時ハ同クシテ重不同ナルハ、其兩カハ中點ヨリノ各距離ニ其重ヲ乘スル者ニ等シ。若ニ體同重同距ニシテ各

一中點ヲ周ル片ハ其兩カハ五ニ時ノ交五セル畧
中ニアリ。譬へバ二球各一錢ニシテ中點ヲ距ル
各一尺ナル片甲球ハ一秒時ニ一周シ乙球ハ二秒
時ニ一周スル片ハ甲球ハ四ノカアリ即乙球ノ時
ノ畧ハ四ナリ乙球ハ一ノカアリ即甲球ノ時ノ畧
ハ一ナリ。○諸游星ノ太陽ヲ周リ月ノ地球ヲ周ル
モ亦コレニ同シ天諸物體ニ各引カテ附與スル
猶垂球ノ索ノゴトシ太陽ハ游星ニ地ニシテ其大
ニシテ其引カヨク諸星ヲ引接シ終ニ一體トナラ
ムトスベキニ天コレヲ防グガ為ニ又別ニ遠心カ

ヲ附與シテ垂球ノ動ノ如クナラシムル第十七
圖ノ如シ。日ヲ太陽トシ星ヲ游星トシ此太陽游星
ヲ引クガ故ニ游星引カレテ星日ノ線ニ從テ太陽
ニ接セムトス然ルニ天別ニ游星ニ星甲ノ線星日ノ
角ヲナニ從テ進ムベキカ即遠心カヲ附與ス故ニ星ニ
兩カノ機アリ一ハ星日ノ線ニ從フ其カハ星乙ノ
線ノ如シ一ハ星甲ノ線ニ從フ其カ亦星丁ノ線ノ
如シ游星コレガ為ニ垂球ノ如ク星丙ノ斜角ヲナ
シテ太陽ノ周ニ星丙庚ノ弧線ヲ畫ス游星丙ニ來
レバ又丙戊ニ同カアリ太陽ニ向ハシメムトシ丙

已ニ亦同カアリテ。接線ニ從テ飛ヒ去ラムトス。故
 ニ丙庚ノ角線ヲ巡ル。此ニカ行ハレテ少時モ間斷
 ナク。以テ星丙庚ノ弧線ヲナス此日星ト日丙トノ
 線甚近ク相接シ。星丙ノ弧線亦續クハ。終ニ行圈
 ラナス。故ニ丙丁及ビ丙甲モ其大相等シ。遠心カハ
 物ヲシテ日ノ中心ヨリ日丙ニ從テ直ニ甲ニ飛バ
 シメムトスル者ニシテ。甲丙ノ線ハ遠心カヲ示シ。
 丙丁庚乙ハ求心カヲ示ス者ナリ。此ニカ相同シケ
 レバ正圓ヲナスベシ。然ルニ遠心カハ或ハ増シ或
 ハ減シテ。以テ諸游星ノ行道側圓ヲナス。天若太陽

ノ引カテ絶テ諸游星ヲ放タバ。游星星甲若ハ丙已
 ニ從テ飛ブ。一垂球ノ線ヲ絶ツガ如クナラム。然レ
 天ヨク萬物ヲ保護シテ曾誤ルナシ。故ニ彗星
 ノ我太陽系ヲ横行スルハニ方テモ。我地球ヲ衝ク
 一ナク。游星モ太陽ニ向テ落ツル一ナク。亦星甲ノ
 線ニ從テ飛ビ去ル一ナク。諸カ互ニ相濟シ。以テ全
 天地ヲ維持ス。故ニ彗星ヲ現シ。以テ地球上各國災
 アルノ前徵トストイフ説ノ信スルニ足ラザル一
 ヲ知ルベシ。夫太陽ノ彗星ヲ引クハ。我地球ヲ引ク
 ニ同シ。彗星モ月モ地球モ共ニ同一カヲ以テ巡周

スル者ニシテ。彗星ノ出ヅルモ日月ノ蝕スルモ。豈
 天人ニ災ヲ示スガ為ナラムヤ。但此等ノ事アレバ
 引カノ相感スル所。必少變アルガ故ニ。更ニ人ニ感
 ゼストイフベカラザルノミ。何怪ムニ足ラム。又人
 ハ禍災ヲ前知スルヨリ最大不樂ナルハナシ。故ニ
 天ノ至善ナル。深ク将来ノ事ヲ祕シテ人ニ告ゲズ。
 而ルニ彗星。火球。狗吠。鴉鳴等ヲ以テ将来ノ災ヲ表
 ストイフハ。天意ニ反クト謂フベシ。

重心

物皆有重重之所聚此曰重心

竹管若ハ鞭若ハ杖ノ半ヲ指頭ニ安スルニ落チザ
 ルハ。其兩端ノ重平均スレバナリ。甲端落チムトス
 ルニハ。乙端必昇ラザルヲ得ズ。故ニ其重相同キ
 キハ。指ヲ定點トシテ。此端ノ重カヨク彼端ノ落チ
 ムトスルヲ支フ。コレヲ平均ト云フ。諸物體皆重點
 アル。此ノ如クニシテ。コレヲ撐フルキハ落チザ
 ル。皆然リ。コハニ三角板アリ。第十七圖ノ如シ。重
 ヲ重心トス。刀尖此點ヲ撐フルキハ落チズ。而シテ
 三角板ノ重心ハ左右諸隅ニ求ムベシ。即第十八圖
 ノ甲乙丙ノ如キ三角板アリ。此重心ヲ知ラムト欲

セバ。甲ト乙トニ釘ヲ刺シ。先乙釘ニ鉛丸ヲ線ニテ垂ル。乙丁ノ如クシ。コレヲ以テ重心ハ乙丁ノ線中ニアルヲ知ル。其板ニ此線ノ中タル處ヲ畫シ。又甲釘ニ掛クルヲ第十九圖ノ如クシ。甲ヨリ鉛線ヲ垂レ。其向フ所ヲ見ルニ。重心甲戊ノ線ニアリ。故ニ此線ト乙丁ノ線ト交叉スル處重脚ニ重心アルヲ知ル。○此法ヲ以テ己ニ重心ノ所在ヲ知ルハ。物傾斜スト雖倒レザルニ定度アルヲ知ル。即第二十圖ノ如キ甲乙ヲ柱トシ。重點重ニアリ。鉛線重丁ニ中タリテ。柱脚ノ丁外ニ出デザレバ倒レズ。

是脚ニテ重心ヲ撐フレバナリ。然レバ第二十一圖ノ如ク。丙戊ヲ長柱トシ。重心昇テ庚ニアルハ。己庚ノ鉛線己ニ柱脚戊ノ外ニアリ。故ニ立ツヲ能ハズ。○イタリヤ國ニ二塔アリ。一ハピサーハボログ子地名ニアリ。其斜立スルヲ第二十圖ノ格柱ノ如シ。故ニ傾倒セズ。然レバ少量ノ物ヲ其上ニ加ヘテバ。必應ニ倒ルベシ。又尋常ノ塔ノ如ク。上層ヲ細クシテ。重心低處ニアルハ。傾斜最甚キモ。尚且倒ルハ。一ナカルベシ。是唯重心線ノ重丁巳庚ノ向フ所ニ由ルナリ。又第二十二圖ノ圓板ノ如キ。重心重ニ

氣海觀瀾廣義

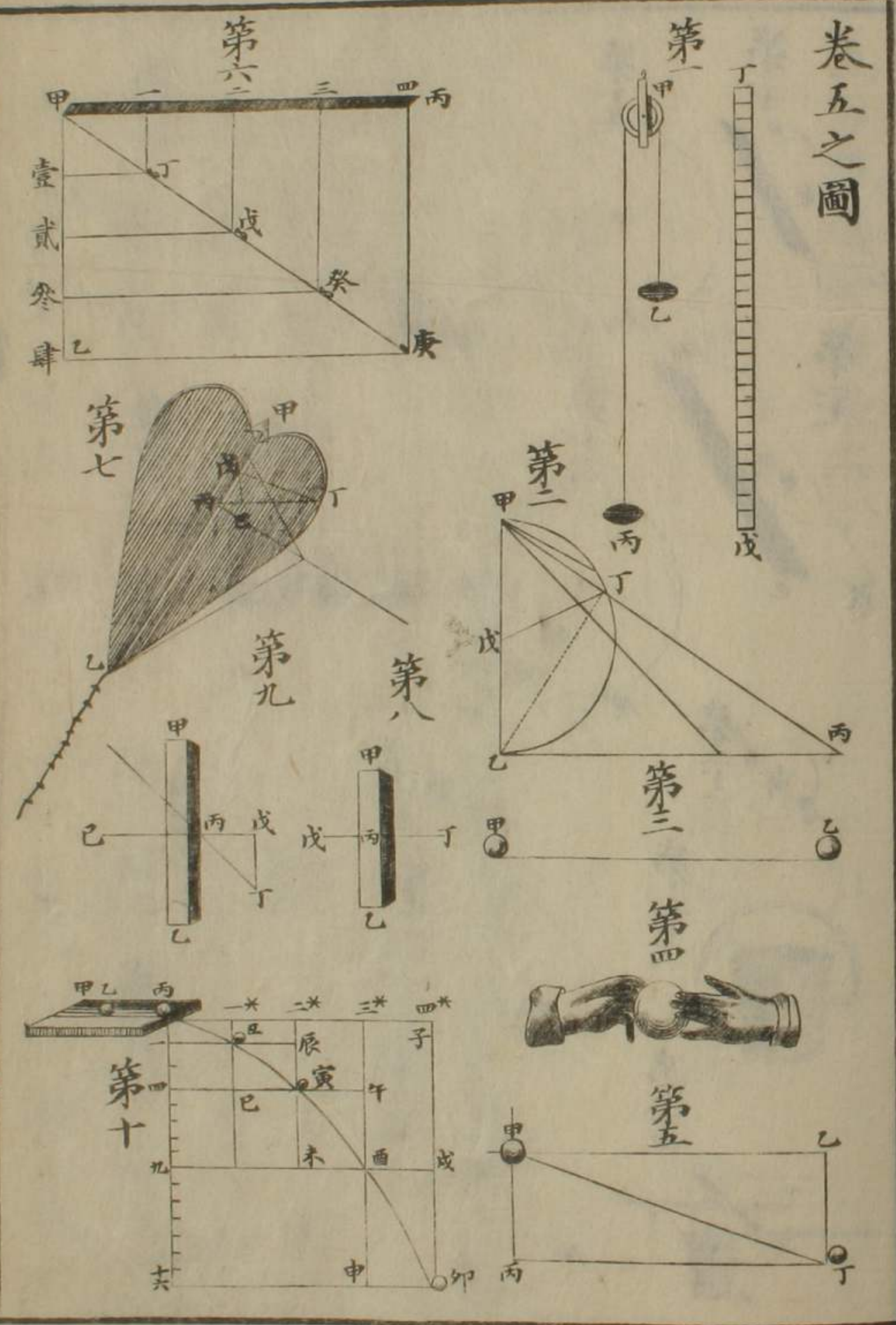
アリ。丙ノ一端ヲ截テ鉛ヲ填スルキハ。重心直ニ移
 テ丙ノ近傍ニアリ。若シ鉛量全板ノ重ニ過グルキハ。
 重心丙中ニアリ。又第二十三圖ノ如キ圓錐形ノ桶
 アリ。重ハ重點ナリ。重上ニ把手ヲ具シ。コレニ水ヲ
 注キ滿ソルキハ。重心一ニ昇テ桶必顛覆ス。是己ニ
 其重心ヲ撐フル者ナケレバナナリ。コレヲ以テ物ニ
 物ヲ添除スレハ。重心忽其位ヲ變スルヲ知ルベ
 シ。夫人身ノ重心ハ下腹ノ最底股間ニアリ。孩兒ハ
 未其重心ヲ撐フルヲ得ズ。故ニ倒ル。蹈繩子ハ重
 杖ヲ持テ。コレヲ左右上下ニ轉シテ。重心ヲ繩上ニ

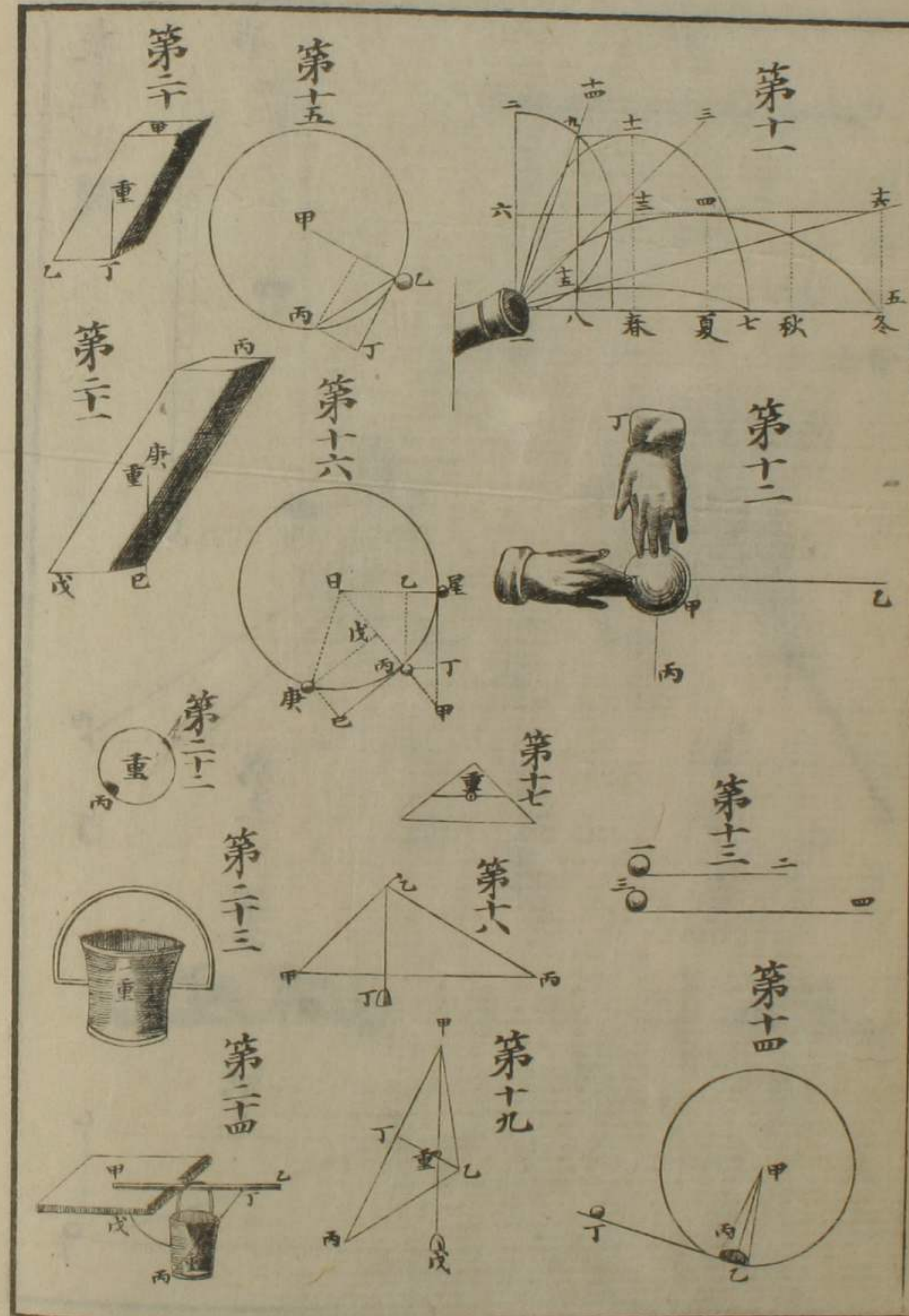
安スルヲ知ル。又第二十四圖ノ如ク凡上ニ甲乙
 ノ杖ヲ置キ。丁下ニ一凹痕ヲ刻シ。水ヲ盛リタル提
 桶ヲ杖ニ懸ケ。務メテ把手ヲ凡ニ接著シ。丙丁ノ細
 杖ヲ取テ。甲端ヲ丁ノ凹痕ニ挾ミ。乙端ヲ桶底ノ丙
 ニ達シ。コノ杖ヲ推シテ微ク傾斜セシメ。手ヲ放ツニ
 此桶落チズ。是甲乙ノ杖ト丙丁ノ小杖ニ懸カリテ
 重心重ニアレバナナリ。蓋此桶落チムニハ。重戊ノ線
 ニ隨テ曲ガリ。甲丁ノ杖コレガ為ニ凡ヨリ落ツベ
 シ。然レ此ノ如クナラムニハ。重重心自昇ラザル
 ベカラズト雖。重心ハ下ルヲ以テ其性トスルガ故

ニ必昇ルヲ能ハズシテ。桶偏スルヲ得ズ。是落チ
 ザルノ理ナリ。又人重物ヲ前ニ携フレバ。身ヲ反張
 シ一手ニ水桶ヲ提グレバ。更ニ空手ヲ延バシ。又物
 ノ尖端愈長ケレバ。重點愈高クシテ。其物速ニ覆ル
 一ヲ知ルベシ。故ニ多ク枯草ヲ積ミタル車ハ其輪
 轉スルヲ空車ヨリモ疾ク。乗車等其輪大ナレバ行
 クヲ速ナルノ類。皆此理ニ同シ。

氣海觀瀾廣義卷五終

卷五之圖





氣海觀瀾廣義卷六

三田

運重器

川本裕幸氏 譯述

運重器者司以小力能運重大矣。分為單複。單器有七。曰
槓杆。曰天平。曰滑車。曰輪盤。曰斜面。曰鉞鑿。曰藤線。

運重器ハ重ヲ舉ゲテコレヲ他處ニ移ス等ノ用ヲ
司ル者ニシテ。一人ノカラ以テ多人ノカニ代ルベ
ク。又衆多ノカラ以テ速ニ物ヲ運スベシ。
第一。槓杆ハ杖若ハ格木ニシテ屈撓セズ。假ニ重力

ナキ者トス。重カナキ者ナシト雖。精細ニ單器ヲ論
 第一圖ノ如キ **甲乙**ノ杖アリ。支磯上 **丙**ニ安ス。此處
 ヲ定點トイフ。杖自在ニ此上ニ旋リテ重ヲ揚グル
 一鐵銚。貨杖等ノ如シ。 **甲乙**ノ杖ヲ以テ **甲**ノ重ヲ
 揚ゲムト欲セバ。手若ハ錘ヲ以テ **乙**ヲ壓スベシ。然
 ルニ手ヲ以テスレバ其カノ強弱ヲ定メ難キガ故
 ニ。カ藝學ニ於テハコ、ニ錘ヲ懸ク。其コレヲ懸ク
 ルモ載スルモ更ニ異ナルヲナシ。此處ヲ柄トス。重
 ヲ揚グル所ノカコ、ニアルヲ以テコレヲカ點ト
 イフ。 **甲**ハ重ヲ比セムト欲スル者ヲ載セ或ハ懸ク

ル處ナレバコレヲ頭トシテ重點トイフ。此三點ヲ
 ヨク記シテ以テカト重トノ比例ヲ知ルベシコ、
 ニ尺アリ。指上ニ安處シテ。一方ハ長ク一方ハ短ク
 ス。然ルニ其兩端ニ共ニ八錢ノ物ヲ置ケバ。長キ方
 ハ低レ短キ方ハ昂ル。コノ時更ニ短キ方ニ四錢ノ
 物ヲ加ヘ置ケバ平均ス。此平均ノ數如是異ナルヲ
 怪ムベキガ如シト雖。尺ノ端ニ長短アルヲ以テノ
 故ニ然ルヲナス。重心篇ニ物ノ重ヲ均クセムニ
 ハ。重心ヲ撐フベシトイヘル者是ナリ。凡杖等ノ兩
 端ニ二物ヲ掛クル者ノ重點ハ。其重ト距度トヲ合

算シテ。雙方相等キ所ノ中央ニアリ。譬ヘバコ、ニ
 一杖アリ。甲端ニ三錢ノ球ヲ掛ケ。乙端ニ一錢ノ球
 ヲ掛クレバ。其平均スル處ハ其杖ノ全長四分一大
 球ニ近キ處ニアリ。是三錢ニ四分ノ一ヲ乘シテ三
 トナリ。一錢ニ四分ノ三ヲ乘スルモ亦三トナル。一
 猶前篇ノ重ニ速ヲ乘スル例ノゴトシ。○第二圖ノ
 槓杆ノ**甲**ヲ重點トシ。**乙**ヲカ點トシ。重點ニ三錢ヲ
 掛ケ。カ點ニモ亦三錢ヲ掛クルハ。其重量ハ同ジ
 ト雖。重カハ同シカラズ。故ニ其槓杆平ナラズシテ。
乙ノカ點ハ低レテ**戊**ニ至リ。**甲**ノ重點ハ上リテ**丁**

ニ至ル。今此**乙**ノ低ル、ヲ以テ**甲**ノ上ル。其速如
 何ヲ見ルベシ。假ニ**乙丙**ノ長ヲ三寸トシ。**甲丙**ヲ一
 寸トスルハ**乙**ノ速ハ三ニシテ。**甲**ノ速ハ一ナリ。
 故ニ此槓杆ヲ平ニセムトスルニ。**甲**ニ九錢ヲ掛ケ。
乙ニ三錢ヲ掛クルハ即平均ス。是**甲**ノ重ハ九ナ
 ルヲ以テ。速一ヲ乘シテ九ノ重カアリトシ。**乙**ノ重
 ハ三ナルヲ以テ。速三ヲ乘シテ九ノ重カアリトス。
 蓋此**甲乙**ノ槓杆動テ**丁戊**ヲ為サムニ。**甲丁**ノ**乙戊**
 ヨリ小ナルハ猶**甲丙**ノ**乙丙**ヨリ小ナルガゴトシ。
 故ニ**甲丁**ノ重距ノ**乙戊**ノカ距ヨリ小ナルモ亦**甲**

丙ノ乙丙ヨリ小ナルガゴトシ。而シテ乙戊ト甲丁ノ兩距共ニ其時ヲ同スルガ故ニ其速カハ其距ノ長短ニ同シ。即其兩速ヲ比スルモ亦甲丙ト乙丙トノ比例ニ同シ。○槓杆ノ平均スル量ヲ算スルニ乙ノ重ニ乙丙ノ距ヲ乘スレバ。甲ノ重ニ甲丙ノ距ヲ乘スル者ニ同シ。蓋甲ヲ一率トシ。乙丙ヲ二率トシ。各異乗同除シテ其數ヲ得ルヲ以テカ。夫槓杆等ニ感スルカハ重點ト同時ニ動クト雖其速ハコレニ數倍シ。其カモ亦數倍多キヲ以テ其量ハ重點ヨリモ小ニシテ平均ス。故ニ速少キ者ハ其量大ナルベシ。

譬へバ甲重ノ速ハ乙カノ速ヨリ少キ。三分一ナルガ故ニカノ量ハ重ヨリ少キ。亦三分一ニシテ平均ス。重物ヲ滑車及ヒ輪盤ヲ以テ揚グルヲ見テモ。明ニ其理ヲ知ルベシ。即輪盤ヲ以テ揚グルニハ唯八分一ノカラ用井テ足ルガ故ニ一男ヨクハ男ノカニ代ルベシ。然レ其速ハ滑車ヨリ少キ。八分一ナルヲ以テ滑車ニ懸クル者ハ速ニ揚ガリ。輪盤ヲ用井ルハ緩ナルナリ。ヨク此理ヲ考フレバ。カ重ニ點平均スルノ狀ヲ算スルヲ得ベシ。カ重間ノ調度ヲ知ラムト欲セバ其器ヲ動カシテ其速

度ヲ測ルベシ。譬へバカ點動ク一十二尺ニシテ重
點ハ同時ニ唯一尺動クハ一錢ノカヨク十二錢
ノ重ニ抗スルガ如シ。カ點ノ量小ナレバ重點ノ速
小ニシテ。カ點ノ重ハ重點ノ速ニ同クカ點ノ速ハ
重點ノ重ニ同シ。故ニカ點ノ重多キハ。重點ノ速
減シ。カ點ノ重少キハ。重點ノ速増ス。凡此規則ハ
總器械術ノ原礎ニシテ。諸器ノ機動皆此理ヲ出ヅ
ル者ナシ。○通常槓杆ヲ分カテ三種トス。是定重
カ三點ノ所在ニ從フ。第一圖ノ如クカ重二點ノ中
間ニ定點ヲ置ク者ヲ第一種トシ。コレヲ掲ト曰フ。

定點甲ニアリ。カ點乙ニアリ。重點丙ニアル者ヲ第
二種トシ。コレヲ挑ト曰フ。カ點丙ニアリ。定點甲ニ
アリ。重點乙ニアル者ヲ第三種トシ。コレヲ捉ト曰
フ。截燭子。鐵鉞。鉞。鑷等日用ノ諸器此槓杆ノ理ニ外
ナル者ナシ。即截燭子ノ釘子ハ此器ノ兩葉ヲ動カ
ス者ニシテ安點ナリ。手ハカ點ニシテ。燭心ハ重點
ナリ。鉞モ亦同シ。手ハカ點ニシテ。剪ラル、者ハ重
點ナリ。鐵鉞。截燭子。鉞等ハ第一種ノ槓杆ニシテ。重
點堅ク若ハ厚重ナルキハ。カ點ヲ定點ヨリ遠クス
ベシ。今鉞ヲ以テコレヲ言ハシ。柄ヲ長クシ。及フ短

クスベシ。即鐵葉ヲ剪ル具及ヒ鍛工所用ノ鋏等是ナリ。然レモ速多キヲ主トシテカ強キヲ欲セザルキハ長及短柄ナル者ヲ用井ル。猶羅絨ノ毛ヲ剪ル所ノ者ノゴトシ。蓋此器ハ速ニ多ク毛ヲ剪リ除ク。一ヲ主トシテ多カヲ要セザレバナリ。○一杆車アリ。兩輪一軸ヲ設ケ。軸ニ杆ヲ繫ギ。一人コレヲ肩ニシテ曳キ。或ハ横枕ヲ杆頭ニ加ヘテコレヲ推ス。此車ハ第二種ノ槓杆ニシテ。其車輪ハ定點。荷物ハ重點。手ハ力點ナリ。其柄愈長ク。荷輪上ニ接スル。愈近ケレバ。カヲ勞スル。愈小ナルヲ以テ。金貨若

ハ他ノ重荷ヲ運スルニハ。荷ヲ輪ニ密接シ。柄ヲ長クス。其コレヲ用井ル所ノ人皆此ノ如ク製スル者ハ。此理ニ由ルニアラズ。唯日用井テ其宜キヲ知ルノミ。○火筋ハ第三種ノ槓杆ニシテ。環ハ定點。兩筋端ハ重點。手ハ力點ナリ。此器ハ力最弱シ。手足モ亦此槓杆ノ速多キ者ナリ。故ニカ多カラム。一ヲ欲ス。譬ヘバ腕ノ筋ハ力點ニシテ。肘ノ關節ハ定點ナルガ如シ。今腕ニ五十斤ヲ掛ケテコレヲ舉ゲムニハ。筋力七百斤許アラム。一ヲ要ス。人ノ手足ハ殊ニ輕易ニ諸動ヲナシ。迅速ニ運用シ。ヨク重物ヲ揚ゲ

テ許多ノカ作ヲナスコトヲ考ヘテ筋カノ強大ナル
ト身體構成ノ靈妙ナルトヲ察スベシ。
第二。天平ハカ重ニ點定點ヲ距ルノ長ト重トヲ等
クシタル槓杆ニシテ其兩臂ノ長重不同ナレバ必
誤アリテ同重ノカ重平均セズ故ニ天平ヲ造ラム
ニハ鍼ヲ直立相對シテ鉛線ノ如クスベシ。若一臂
ヲ稍細長ニシ盤ヲ輕クシテ他臂ト平均セシメタ
ル者ハ其誤少カラズ此ノ如キ者ハ其盤ヲ左右交
換セバ平均セザルコト見ツベシ。此不正ナル天秤ヲ
以テ權リタル物ノ本重ヲ知ラムト欲セバ先其物

ヲ甲盤ニテ秤リ次ニ又乙盤ニテ秤リ其甲乙ノ秤
量ヲ乘シ平法ヲ以テコレヲ開クベシ。試ニ牛酪一
片ヲ取リ秤ルニ甲盤ニテ四錢ヲ得乙盤ニテ九錢
ヲ得ムニハ九ニ四ヲ乘シテ三十六トナル。平方ヲ
以テコレヲ開ケバ六ヲ得ルガ故ニ其本量ハ六錢
ナルコトヲ知ル。○等子ハ亦第一種ノ槓杆ノ支磯ニ
代ルニ提繫ヲ以テスル者ニシテ其横梁天平ノ梁
ニ比スルニ提繫正中ニ在ラザルヲ異トス其カト
重トノ比例ハ提繫ヲ距ルノ長短ヨリ出ヅ即十倍
ノ長短アレバ十ト一ト平均ス故ニ槓杆ニ準シ推

シテ此理ヲ知ルベシ。

第三滑車ハ其體全ク輪ニシテ其側面兩旁高クシテ中ハ凹ミ輻ナク齒ナク軸ナク而シテ軸ノ眼アリ別ニ架アリコハニ軸ヲ安シテ車眼ヲ貫キ凹處ニ繩ヲ容レテ轉旋スル最滑利ナリ故ニ此名アリ。槓杆等ノ器ハ愈大ナレバ其能力亦愈大ナリト雖滑車ハ大ト小ト能力共ニ同シ其兩徑相等キ故ナリ。第三圖ノ甲乙ノ如ク恰天平ノ甲乙ニ異ナラス。丙ハ定點ニシテ重點トカ點ト相平均スルニハ其重ヲ同ス唯一滑車ヲ用井レバ機動ヲナシ易シ

ト雖人カヲ省ク一少ク只力半ニシテ以テ全重ヲ起スベキノミ重物ヲ揚ゲ井ヨリ水ヲ提ル片ハ臂力疲レ易シコハニ滑車ヲ設ケテ人下ヨリコレヲ挽ケバ甚易キガ如シ但滑車ヲ多ク用井レバ大ニ人カヲ省ク一第四圖ノ如シ滑車甲ヲ上ニ懸ケ滑車丙ヲ轉シ易カラシメ重ニ重ヲ掛クレバカニ一斤ヲ掛ケテ重二斤ヲ揚グ是乙點重ノ一半ヲ負フガ故ニ甲滑車モ亦其一半ヲ負フコハヲ以テカハ二尺下リテ重ハ一尺ヒル此法ニ因テ諸滑車ヲ架ニ繋ギコレヲ雙滑車ト名ヅク其滑車ノ數ニ從テ

其カヲ省ク₁多少アリ。第五圖ノ如ク四滑車ヲ繫
グ者アリ。カ₁一斤ヲ掛ケテ。四斤ノ重ヲ揚グベシ。
此類ノ器ハ船ヨリ重物ヲ揚ゲ。或ハコレヲ他處ニ
移ス等ニ用井ルナリ。常用ノ雙滑車ノ如ク。唯一繩
ヲ以テ諸滑車ヲ纏フ者ハ。皆通シテ此規則ニ同シ。
此他別ニ雙滑車ノ製法アリ。ヨク此學ニ進歩セバ。
自コレヲ知ルベシ。○スパ₁ンセ雙滑車ハ船上ニ
使用スル者ニシテ。兩繩ヲ以テ製スル₁第六圖ノ
如シ。カ₁一斤ヲ以テ重七斤ト平均ス。即₁乙丙ノ雙滑
車ノカ₁一斤ハ重₁三斤ニ對ス。三滑車アレバナリ。重

三斤トカ₁一斤ト合セテ四斤ヲナス。此四斤又₁甲ノ
滑車ニ掛カリテ。甲乙ノ繩コレヲ引ク。重₁ニ掛カリ
テカ₁一斤ト平均シタル三斤。今₁甲乙丙ノ繩ノ為ニ
四斤ヲ以テ引キ揚ゲラル。故ニ₁甲乙ノ繩ハ四斤ノ
カヲ得。コレニ前ノ三斤ヲ加ヘテ。以テ七斤ト平均
スルナリ。
第四。輪盤ハ輪ト軸トヨリ成ル。重ヲ繫グ所ノ索此
軸ヲ絡フ₁第七圖ノ如シ。其カ重平均スル理ヲ知
ラムト欲セバ。速ノ法ニ注意スベシ。夫輪一轉スレ
バ。軸亦一轉ス。故ニカノ速ヲ₁甲輪ノ大トスレバ。重

ノ速ハ乙軸ノ大ナリトス。コトヲ以テ普通ノ規則ニ從テ。即第二圖甲丙重ノ速一ニシテ重三ナル者一ナル者ハ乙軸ニ比スベク。乙丙カノ速三ニシテ重比スベキヲ云フ。乙ノ周邊ノ甲ノ周邊ヨリ小ナルガ如ク。小カヲ以テ大重ニ抗スベシ。今甲ノ周邊ヲ九尺トシ。乙ノ周邊ヲ一尺トスルハ。カ一斤ヲ以テ重九斤ニ對スベシ。是輪ト軸トノ大ニ準スルナリ。第八圖ノ如ク。輪盤ヲ槓杆ニ比スレバ。其理自昭ナリ。即甲戊己ヲ輪ノ周邊トシ。乙庚丁ヲ軸ノ大トシ。大輪モ軸ノ周邊ヲ旋リ。重ノ索モ亦コレヲ絡フ。カノ甲ヲ動カス際ニ。重ハコレニ抗スル重トナ

リテ丁ニ掛カルヲ以テ槓杆ノ甲丙丁ヲナス。此軸ト輪ト相合シテ。槓杆ノ機動ヲナスヲ以テ考フレバ。此器ノカ重ノ機動自知ルベシ。即槓杆ノカ重ヲ以テ論スレバ。丙丁ノ甲丙ニ於ケル者ハ。即軸半径ノ輪半径ニ於ケル者ニシテ。猶コレヲ倍スルハ。軸ノ全徑ノ輪ノ全徑ニ於ケルガトシ。故ニ輪愈大ニシテ軸愈小ナレバ。物ヲ揚グルト愈易シ。然レモ妄ニ其軸ヲ小ニスルト得ズ。小ニ過グレバ必破壊ス。○通常輪盤ヲ以テ物ヲ揚グルニ。其昇ルト次第ニ緩ニシテ。其重次第ニ増ス者ハ。索其軸ヲ疊

纏シテ周邊ヲ大ニスレバナリ。此ノ如キ片ハ亦人
 カヲ費サズルコトヲ得ズ。故ニコレヲ禦グカ為ニ人
 其索端ヲ把リテ數、コレヲ解キ以テ多ク絡フコト勿
 ラシム。○輪子多ク用井ル所ノ者極メテ多シ。轆轤
 ナル者アリ第九圖ノ如シ。十字轆轤ナル者アリ。第
 十圖ノ如シ。行輪アリ。人若ハ畜其輪内ニ行キ以テ
 他重ヲ轉ス。攪輪アリ。輜外ニアリテ或ハ推シ或ハ
 曳ク。踏輪アリ。足ヲ用井テ踏ム。攀輪アリ。手ヲ用井
 テ攀ヅ。水輪アリ。水カコレヲ激シテ轉ス。風輪アリ。
 風カコレヲ鼓シテ回ル。齒輪アリ。齒他輪ノ齒ト軋

テ相轉ス。凡此等ノ器ハ皆輪盤ノ理ヲ推シ以テ其
 機カヲ知ルベシ。

第五斜面ハ斜ニ掛ケタル盤面ニシテ阪橋及ニ客
 梯ノ如シ。第十一圖 **丁戌**カヲ索ヲ以テ **壬**ヲ踰エテ
丁ノ重ヲ引キ揚グル片ハ **カ**降リテ **癸**ニ至ル。其
 長 **丁戌**ノ距ニ同シ。然レモ重昇ル **辛庚**ヨリ高カ
 ラズ。而シテ **庚辛**ハ斜面ノ高ニシテ **丁戌**ハ傾斜ノ
 高ナルガ故ニ。此重ヲ斜面上ニ對持スルカト重ノ
 量トハ。猶斜面ノ高ト傾斜ノ多少トノゴトシ。例ス
 ルニ斜面ノ **甲乙**ヲ十二尺アリトシ。 **乙丙**ノ高ヲ四

尺トシ。丁戊ノ索ノ斜面ニ感スルノ平等ナレバ。カ
 四斤ヲ以テ丁十二斤ニ抗スベシ。是乎ニ甲丙ノ線
 ニ從テ動クハハ。カト丁トハ乙丙ト甲丙トノ如キ
 ヲ以テナリ。コ、ヲ以テ橋低ケンバ重ヲ揚グルノ
 易シ。是其高ニ比スレバ傾斜大ナルガ故ナリ。
 第六。鉞及ビ鑿ハ兩斜面ヲ合セタル者ニ同シ。木ヲ
 割ルノ主ル。此器ハカヲ加フルニ槌若ハ他物ヲ
 以テスルノ第十二圖ノ甲ニ於テス。重ハ其木ノ割
 ル、處ナリ。鉞ノカハ乙丙ノ背ニアリ。重ニ對抗ス
 ルノ鉞背ノ半厚ナリ。丙甲ノ高ノ甲丁ニ於ケルガ

如シ。鉞ノカハ甲丁ノ線ニ從フ者ナリトシテコレ
 ヲ見レバ。斜面ニ在テ平線ヲ以テ説ク者ト同一般
 ナリ。○鑿。刀。鉞。釘等皆鉞ニ同シテ。愈薄ケレバカヲ
 用井ルノ愈少シ。カヲ磨ギテ薄クスレバ。銳利ナル
 ハコレガ為ナリ。
 第七。藤線螺轉ハ兩器ヲ集合スル者ニシテ。其一ハ
 柱ノ周邊ニ線ヲ絡ヒテ各其廣ヲ同シ。一ハ凹溝ニ
 シテ柱線ニ嵌ス。第十三圖ノ如シ。其力重ノ速ヲ算
 スルニ。甲カ全ク一周スルハ。丙丁ノ高ヲ卷舉ス。
 故ニカノ重ニ於ケル。丁丙線ノ廣ノ柱ノ周邊ノ大

ニ於ケルガ如ク。此圖ノカノ重ニ於ケル。丙丁ト甲
 カヲ全徑トシタル圈ノ周邊トノ如シ。今藤線ノ各
 線ヲ半寸許トシ。甲乙ノ長八尺。尺ハ十二アリテ。二
 十四尺ノ圈ヲナストスルハ。重昇ル一半寸ニシ
 テ。カハ二十四尺ヲ周ル。故ニ其カノ重ニ於ケル。半
 ト二十四倍ノ十二トノ如クニシテ。二百八十八寸
 ナリ。即一ト五百七十六ト等クシテ。一斤ノカヲ以
 テ五百七十六斤ニ對スベシ。コ、ヲ以テ深彩戸装
 本家等必コレヲ須ク。其理ハ亦斜面ヨリ出ブル者
 ナリ。

合二器以上者。名曰復重運器。併諸器カ。以代多人。

輪盤斜面ヲ合スル者アリ。第十四圖ノ如シ。甲ハ輪
 盤ニシテ重ヲ繫ギタル索ヲ其軸ニ絡フ。乙ハ即斜
 面ナリ。舟及ビ重物ヲ揚グ。十字輪及ビ轆轤モ亦斜
 面ニ合用スベシ。第十五圖ノ扳杓子ハ甲ニ轆轤ア
 リ。丁杓ヲ繫ギタル鏈コレヲ絡フ。甲ノ柄端戊ニ四
 個ノ雙滑車アリテ。其索十字轆轤ノ軸丙ヲ絡フ。此
 十字轆轤ヲ轉スレバ。諸具相傳ヘテ大カヲ發スベ
 シ。總ベテ複器ノカヲ知ラムト欲セバ。各器ノカヲ
 一一算定シ。以テコレヲ乘スベシ。例スルニ第十六

圖ノ如キ三槓杆相連ナル者アリ其力重平均ノ度
 フ算スルヲ左ノ如シ。甲ニ在テハカノ重ニ於ケル
 一ト三トノ如ク。乙ニ在テモ亦同ク。丙ニ在テハ一
 ト四トノ如シコレヲ乘スルハ一ト三十六トノ
 如シ此理ヲ考フルニ。重三十六斤アリトシ。甲槓杆
 ノ三十二斤ト平均シ。乙槓杆ノ三四斤ト平均シ。丙
 槓杆ノ四一斤ト平均スルガ故ニ一斤ヲ以テヨク
 三十六斤ニ對スルヲ得。又拔杓子ノ轆轤ヲ一尺
 ノ太トシ。柄ヲ三尺トシ。全輪ノ中徑ヲ六尺トスレ
 バ。其力ノ重杓ニ於ケル。一ト六トノ如ク。四個ノ雙

滑車ノ力ノ重ニ於ケル。一ト四トノ如ク。十字轆轤
 ノ軸庚ヲ半尺ノ太トシ。柄ノ長ヲ六尺トスレバ。其
 カノ重ニ於ケル。半ト六トノ如ク。即一ト十二トノ
 如シ。故ニコレヲ合算スレバ。一ト二百八十八トノ
 如シ。此柄乙ヲ轉スル所ノ人カラ三十斤アリトス
 ルハ。一男ノ力ハ八千六百四十斤ト平均シテ。二
 百八十八男ノカラナスヲ得。○又蠻カト名ヅク
 ル器アリ。第十七圖ノ如シ。其カヨク家屋ヲ引キ移
 スベシ。諸工匠重物ヲ揚ゲテコレヲ他處ニ移スニ
 用井ルナリ。其製法諸具皆器内ニアリテ。外ヨリ其

カノ發スル處ヲ見ルベカラズ。鐵錠ニ齒アル者アリ。**甲**癸ノ如シ。重ヲ**甲**若ハ**癸**嘴ニ置ク。**丙**輪ハ轉子**乙**ヲ以テ鐵錠**甲**癸ノ齒ニ嵌ス。輪**丙**ハ轉子**丁**ニ動カサレ。**丁**ハ柄**戊**己ニ動カサル。**己**カノ**甲**重ニ於ケル。轉子**乙**ノ輪**丙**ニ於ケルガ如ク。又轉子**丁**ノ柄**戊**己ニ於ケルガ如シ。轉子**乙**ト**丁**トヲ一トシ。輪**丙**ト六トシ。柄**戊**己ヲ六トスル片ハ其カノ重ニ於ケル。一ト輪六ト。又一ト柄六トノ如シ。コレヲ乘スレバ。一ト三十六トノ如シ。又單變カト名ヅクル者アリ。前器ノ中**丙**輪ナク。**丁**轉子ヲ以テ直ニ**甲**癸鐵錠ニ

嵌スル者ナリ。其カノ重ニ於ケル。轉子**丁**ト柄**戊**己ノ長トノ如クシテ。一ト六トノ如シ。○人ヨク此諸器ヲ使用スル片ハ幾許重キ物ト雖。一人ノカヲ以テコレヲ動カスコトヲ得ル。實ニ驚クニ堪ヘタリ。但此等ノ説ハ皆力重平均ノ度ヲ示ス者ニシテ。物ヲ移サムニハ多少其カヲ増スベシ。即五十斤ト五十斤トハ互ニ平均スルノミナレバ。五十斤ノ重ヲ移サムニハ必五十一斤以上ノカヲ須井ザルコトヲ得ザルガ如シ。且諸器相摩軋スルコトノ輕易ナラムコトヲ欲ス。蓋輪盤ノ摩軋滑車ノ索ノ硬キ等皆ヨク

其カヲ妨グ。故ニ諸器ヲ集合スルニ愈多ケレバ。摩
 軋ノ害亦愈多キヲ以テ。其カヲ得セシメムト欲シ
 テ。妄ニコレヲ集合シ。却テコレヲ失フニアリ。此摩
 軋ハ諸器各異ナリト雖。大抵其重ノ八分一乃至三
 分一ニ居ル。摩軋スル所ノ面平滑ニシテ小ナレバ。
 其害少ク。粗糙ニシテ大ナレバ加多シ。故ニ其處ニ
 油ヲ塗リテ。鍼眼ヲ填メ。以テ其摩軋ヲ減ス。然レモ
 摩軋モ亦用アリ。水車風車ニハ。栓ヲ挿ミテ其動ヲ
 止メ。藤線ハ。摩軋ノ為ニ反脱セズ。碾磑ニテ穀果ヲ
 研末シ。砧杵ヲ以テ綿布ヲ平滑ニスル等是ナリ。○

自鳴鐘ニ準シテ自行舟車ヲ製シ。古ノ木牛流馬ニ
 代ラシムル等。奇器多シト雖。此等ノ理ヲ推シテ知
 ルベキガ故ニ。コ、ニコレヲ略ス。但風車ノ用ハ甚
 多キガ故ニ。今風轉翻車ノ法ヲ載ス。第十ハ圖ノ翼
 甲ハ此器運動ノ原始ニシテ。其斜ナルガ為ニ風ヲ
 斜ニ流ス。風カヨク翼ヲ庚ヨリ辛ノ方ニ轉ス。翼ヲ
 挿ミタル軸コレガ為ニ旋リテ。コレニ著ケタル輪
 乙ヲ轉ス。此輪丙ノ輪齒ニ合シテ大軸ヲ轉ス。此軸
 ハ四ノ正中ニ立チ。其下ニ輪丁アリ。戊冠輪ノ齒ニ
 嵌ス。此冠輪ノ軸ニ汲輪己ヲ著ク。此輪速ニ水中ニ

旋リテ水ヲ揚グル一四五尺ニ至ル。卑濕ノ地多水ノ田ニ水ノ溢ル、ヲ防グベク。又低處ノ水ヲ高キニ輸スベシ。又此器ノ中心ノ軸ニ更ニ一輪ヲ設ケテ油ヲ搾リ、臼杵ヲ加ヘテ穀果ノ皮殼ヲ去リ、碾磑ヲ具ヘテ穀類ヲ粉末スル等ノ用ニ供スベシ。此他風車ノ製法數種アリ。其簡ナル者ハ支柱ニ四翼ヲ設ク。其翼ハ竹木ヲ組ミテ以テ方形ヲナス者アリ。長方ヲナス者アリ。布帆ヲ設クル者アリ。又方板ノ風扇垂レテ輪下ニアル者アリ。又輪上ニコレヲ設ケ。每扇各一索アリテ。風來レバ板直立シテ其吹ヲ

受ケ。過グレバ自然ニ少ク垂レテ風ヲ阻ツルヲ勿ラシムル者アリ。或ハ方形ノ四翼ヲ柱ニ接シ。其外ニ方屋ヲ造リ。各方ノ一半ヲ開キテ風ヲ引ク者アリ。或ハ八風扇ヲ設クル者アリ。風ヲ受クル一更ニ大ナリ。共ニ磨ヲ行ラシ。木石ヲ解キ。碓ヲ舂ク等。諸般ノ設ヲナス者ナリ。○凡風力及ビ水カヲ以テ重ヲ運スル諸器ヲ製スル一ハ已ニ久ク。尚更ニ氣船風炮等ヲ造リ。近世ニ至テ蒸氣ヲ以テ車ヲ走ラシ。舟ヲ行リ。重ヲ運シ。銃丸ヲ彈スル等ノ具ヲ發明スルニ至ル。此他諸器ノ論載スベキ者多シト雖。舉グ

ルニ暇アラズ。惟ヨク此等ノ説ヲ推シテ以テ他器ニ及ボサバ了解セザル者鮮カラム。蓋球ヲ投スルヲ見テ物ノ進行スル道ヲ知り。紙鳶ヲ見テ其空中ニ飛揚スル理ヲ察シ。等子ヲ見テ重カク考へ。磨碓ヲ見テ輕便ヲ思ヒ。鉞鑷刀剪燭子勝槁手足ノ機動ヲ見テ槓杆ノ理ヲ悟リ。堅ヲ切ルニハ刀鉞ノ本ニ於テシ。船ヲ速ニ進ムルニハ横梁ヲ高クシ。重車ヲ橋阪ニ舉グルニハ斜ニ曳クヲ見テ。斜面ノ理ヲ考へ。刀鑿鉞釘嘴爪牙角ノ用ハ鉞ニ似タルヲ覺エ。指環狹控スル者ヲ脱クガ為ニ。指ニ線ヲ卷キテコレ

ヲ緩クスルハ。藤線ノ理ニ本ヅク一ヲ自得スル等是ナリ。

物體衝突

物之相抵。各有其力。陷與彈隨其性。重與速異其象。

衝突トハ動體ノ他體ニ觸レテ衝キ抵ルノ義ナリ。此時ニ方テ起ル所ノカアリ。即彈カ等ナリ。然レ凡物皆コレアルニ非ズ。其壓シテ陷没セザル者。若ハ陷レ凡前形ニ復セザル者ハ。彈カナシ。譬へバ灰ノ如キ。一タビコレヲ壓スレバ。則陷凹シ。其痕永ク存スルガ如シ。○彈カアル者アリ。象牙球ノ如シ。相觸

ルレバ其面凹ニ相離ルレバ故ニ復ル。故ニ彈カチ
 キ者ト其規則自異ナリ。コ、ニ象牙球アリ。大理石
 ノ如キ彈カアル者ニ向ヒテコレヲ投スレバ。翻飛
 ス。彈カナキ者是其相抵ル片石ヲ陷レ。石モ亦此球
 フ壓シテ共ニ陷凹ス。故ニ球ノ上下相對スル面壓
 扁セラレ。周側コレガ為ニ擴張シテ正圓ヲ變ス。此
 時兩體共ニ其本形ニ復ラムト欲シ。其陷スル所ノ
 カヲ以テ互ニ彈シ。其球翻飛シテ初来リシ所ノ高
 ニ至ルナリ。コ、ニ平ナル黒大理石アリ。水ヲ含ミ
 タル海綿ヲ以テコレヲ拭ヒ。象牙球ヲ其上ニ落ト

セバ。翻飛シテ吾手ニ復シ。而シテ石上ニ著ク痕ヲ
 殘ス。球ヲ落トス。愈高ケレバ。其痕愈大ナリ。コレ
 フ見テ球ト石ト共ニ一回陷凹セシ。ラ徵スルニ
 足ル。否ザレバ唯一小尖點相抵ルノミ。如何其痕ノ
 若ク大ナル。一ヲ得ムヤ。又此球ヲ石上ニ投スル片
 ハ。其翻飛スル片垂線ヲ距ル。初投スル方ト距離
 フ等ス。是ヲ以テ投入ノ角度ハ。翻飛ノ角度ニ等ト
 云フ。○兩物相抵リ而シテ後翻飛スル。其時間ニ長
 短アリ。コレニ因テ見ル、者ヲ速カトイフ。コレヲ
 算スルニ法アリ。蓋物體相抵ル後。其速カヲ算スル

ハ一體ノ重ト速トヲ乗シ。コレニ他體ノ重ト速トノ乗數ヲ加ヘ。二體ノ總量ヲ以テコレヲ除スベシ。譬ヘバ甲體ハ重四錢ニシテ速九ナリ。乙體ハ重三錢ニシテ速二ナルハ。甲ハ速九ニ重四ヲ乗シテ三十六ナリ。乙ハ三ニ二ヲ乗シテ六ナリ。合シテ四十二トナル。二體ノ總量七ト合スル者。ヲ以テコレヲ除シ。其速六アリトスルガ如シ。此時ハ甲體乙體ニ追隨ス。即甲速ノ九乙速ノ二ト合シ。互ニ相與奪シテ六ノ速トナル。コレニ反シテ二體兩方ヨリ来リ互ニ相遇スハ。各別ニコレヲ算スベシ。譬ヘバ

一體ハ六錢ニシテ速三ナリ。一體ハ三錢ニシテ速六アリテ相抵レバ。其後ノ速ハ零ニシテ。二體共ニ靜止ス。是六ニ三ヲ乗シテ十八トナリ。三ニ六ヲ乗スルモ亦十八トナリ。重ノ總量九ト合スルヲ以テ除シテ。其速零ナルヲ知ルガ如シ。○兩個ノ彈カアル物相抵リテ後起ル所ノ速ハ。彈カチキ物ノ相抵ルト同カラザルハ。蓋陷處ノ復スルガ為ニ。其速重複スルヲ以テナリ。然レモ二物不同ノ機アリテ。一ハコレヲ進メ。一ハコレヲ止ム。是甲ハ全カラ以テ乙ヲ陷レテ進マシメ。而シテ其陷四ヲ復スル

ガ為ニ終ニ自抑止セラル、ナリ。譬へバ同量ノ二球アリ。甲ハ速五アリテ前行シ。乙ハ速十アリテ後ニ随フ。甲ヲ追衝ス。而シテ兩球ニ生シタル所ノ四處故ニ復スル。此十速ノ勢兩球ニ分カレ。乙ハ反衝セラレテ五ヲ失ヒ。甲ハコレガ為ニ五ヲ得。コトヲ以テ兩球ノ速交換シテ。十ナル者ハ五トナリ。五ナル者ハ十トナリテ進ム。試ニ二個ノ象牙球同重ナル者ヲ各同長ノ線ニ掛ケ。コレヲ近ク接シテ相抵ラシメ。而シテ其一球ヲ舉ゲ。他球ニ向ヒテ落トス。ハハ。靜ニ掛リタル球其カヲ取リテ昇ル。ト落

トシタル處ノ高ニ至リ。落トシタル球ハ相抵リタル處ニ止マルガ如シ。是速十ノ勢アル球靜止スル球ヲ陷ル。其陷四ノ復スル。固有ノ速ヲ以テ反衝シテ靜止シ。他球ハコレガ為ニ十分ノ速トナル。又コトニ一奇事アリ。五個ノ象牙球同重ナル者ヲ線ニ掛ケ。コレヲ接通スル。前ノ二球ヲ以テナシ、片ノ如クシ。甲球ヲ舉ゲテ。他ノ四球上ニ落トス。片ハ。甲球コトニ靜止シテ。戊球飛揚スル。甲球ヲ落トシ、高ニ等キニ至ル。又甲乙二球ヲ取リテ前ノ如クスル。片ハ。丁戊二球飛揚スル。甲乙二球ノ速

ニ同ジ。其球彈カ皆同ク強ケレバ。幾多ノ球ヲ以テ
 スルモ皆同ジ。是蓋五球中其一ヲ落トスハ。其球
 陷四スル。其勢カニ等シテ。コレヲ第二球ニ傳ヘ。
 第二コレヲ第三ニ傳ヘ。第三コレヲ第四五ニ傳フ。
 第五球ハ自在ニ離カルガ故ニ。其陷四ヲ復スルガ
 為ニ飛ブ。上ニ飛ヘル唯二球ヲ以テスル者ニ異
 ナラズ。又同時ニ二球ヲ落トスハ。第三球陷四ス
 ル。一倍シ。コレヲ復スルカモ亦一倍ス。コレヲ以
 テ第四五球ヲ同時ニ飛揚セシムル者ナリ。○前ノ
 動力篇ニ載スルガ如ク。二物一同他物ニ向ヒテ進

ム所ノカハ。各體ノ速ノ畧ニ重ヲ乗スル者ニ同ジ。
 コレヲ試ムル法アリ。球ヲケレイ中ニ落トシ。其四
 竅ヲ見テ其カラ知ルナリ。今軟ナルケレイノ堤ニ
 彈丸ヲ投シ。其速ヲ一トス。堤ノ陷四スル深ハ此丸
 ノ機動ニ成ルナリ。其陷ルニ時アリ。假ニコレヲ一
 秒時トスレバ。其陷四ハ一秒時ニ速一ヲ以テ成リ
 タル者ナリ。又此堤ニ此丸ヲ投スルニ二ノ速ヲ以
 テスレバ。所謂動力ハ重ヲ乗シタル速ニ同キ理ニ
 シテ。其機動ハ二ニ等シテ。堤ヲ陷ル。一倍ナル
 ベキニ似タリ。然ルニ速ニナル者ハ。其速初ニ勝ル

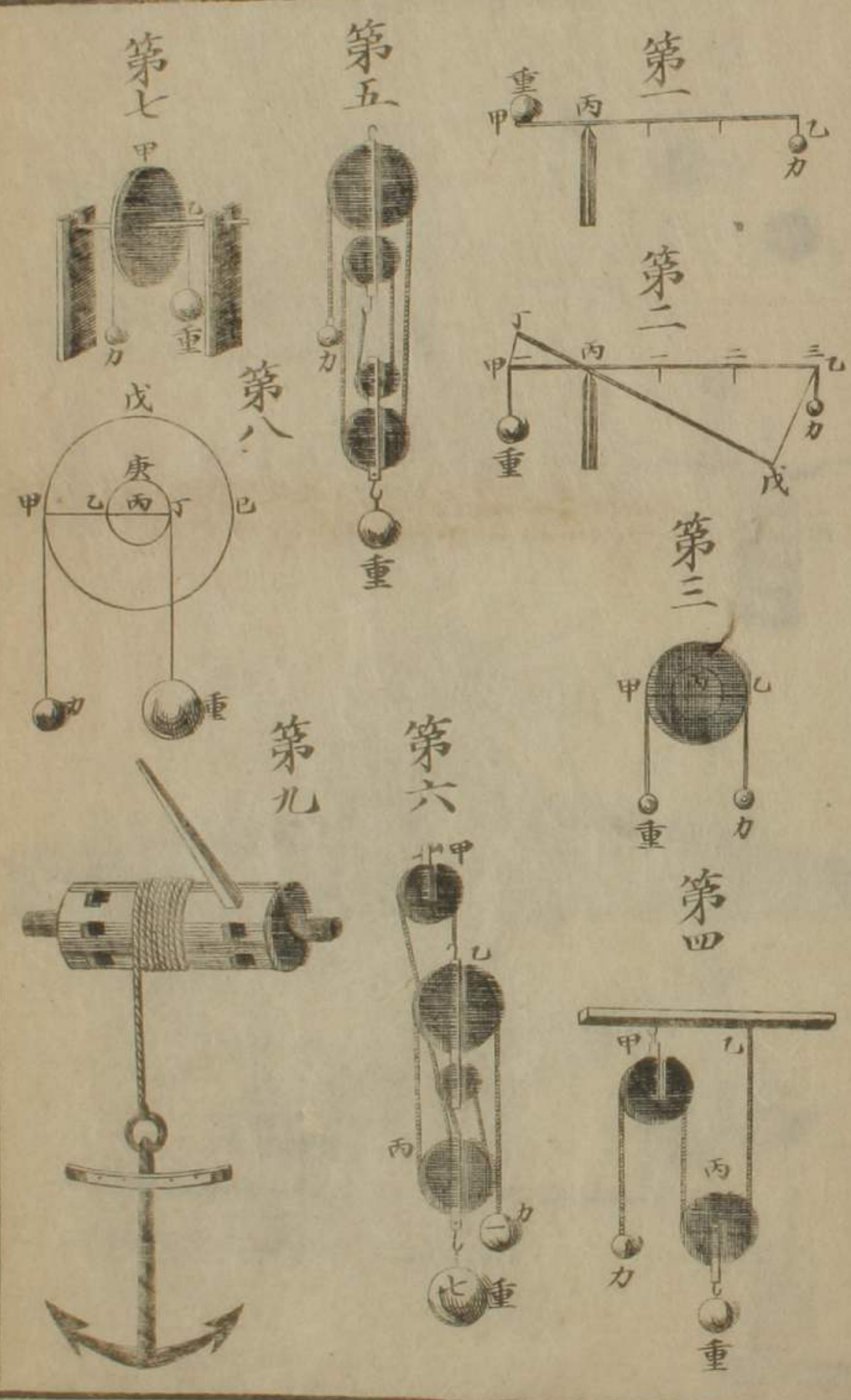
一 一倍ナルヲ以テ時ヲ費ス一纔ニ半秒ナリ故ニ
 其餘尚半秒時ノ動アルヲ以テ初ニ四倍シテ速ニ
 ノ算數即ヲ得又速三ヲ以テ投スルハ其動ハ三
 ニシテ堤ヲ陥ル一初ニ三倍ス其速三倍ナルヲ
 以テ時ヲ費ス一一秒時ノ三分一ナルガ故ニ一秒
 時中ニハ堤ヲ陥ル一三倍ス即九倍ニシテ速三
 ノ算ナリ是皆同量彈丸ヲ用井ルノ算ナリ若又其
 丸重ヲ異ニスルハ速ノ算ニ重ヲ乗スベキ一明
 ナリ此故ニ彈丸ノ動ヲナスベキ時ト動カラ察ス
 ベキ速トヲ考フベシ凡動カハ重ヲ乗シタル單速

ニ等キヲ以テ動體ノ他體ニ抵ル所ノ機カハ重ヲ
 乗シタル速ノ算ヲ以テ算スベシヨク此理ヲ知ラ
 バ以テ諸事ヲ推スベシ即兎ヲ射ルニ直ニ適ルハ
 者ヨリハ横ニ走ルハ中タリタルハ其カ強ク壯
 健ナル士卒ハ重キ曹ヲ換用シ筋カ強キ人ハ鐵砧
 フ腹上ニ安シ重鈍ヲ以テコレヲ擣タシメ烟管ヲ
 直ニ鐵版上ニ落トスニ其首飛揚シ石若ハ彈丸ヲ
 水ニ投スル片ハ數次磯躍スル等ミナ彈體互ニ相
 衝キテ陷凹シタル處ノ故ニ復スルカヨリ起ル一
 ヲ知ル等ナリ

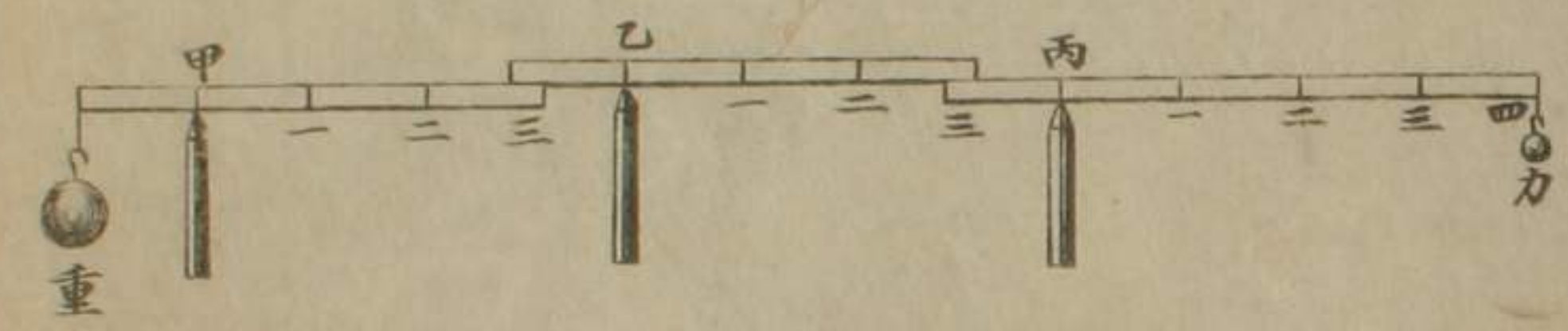
氣海觀瀾廣義卷六終

Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

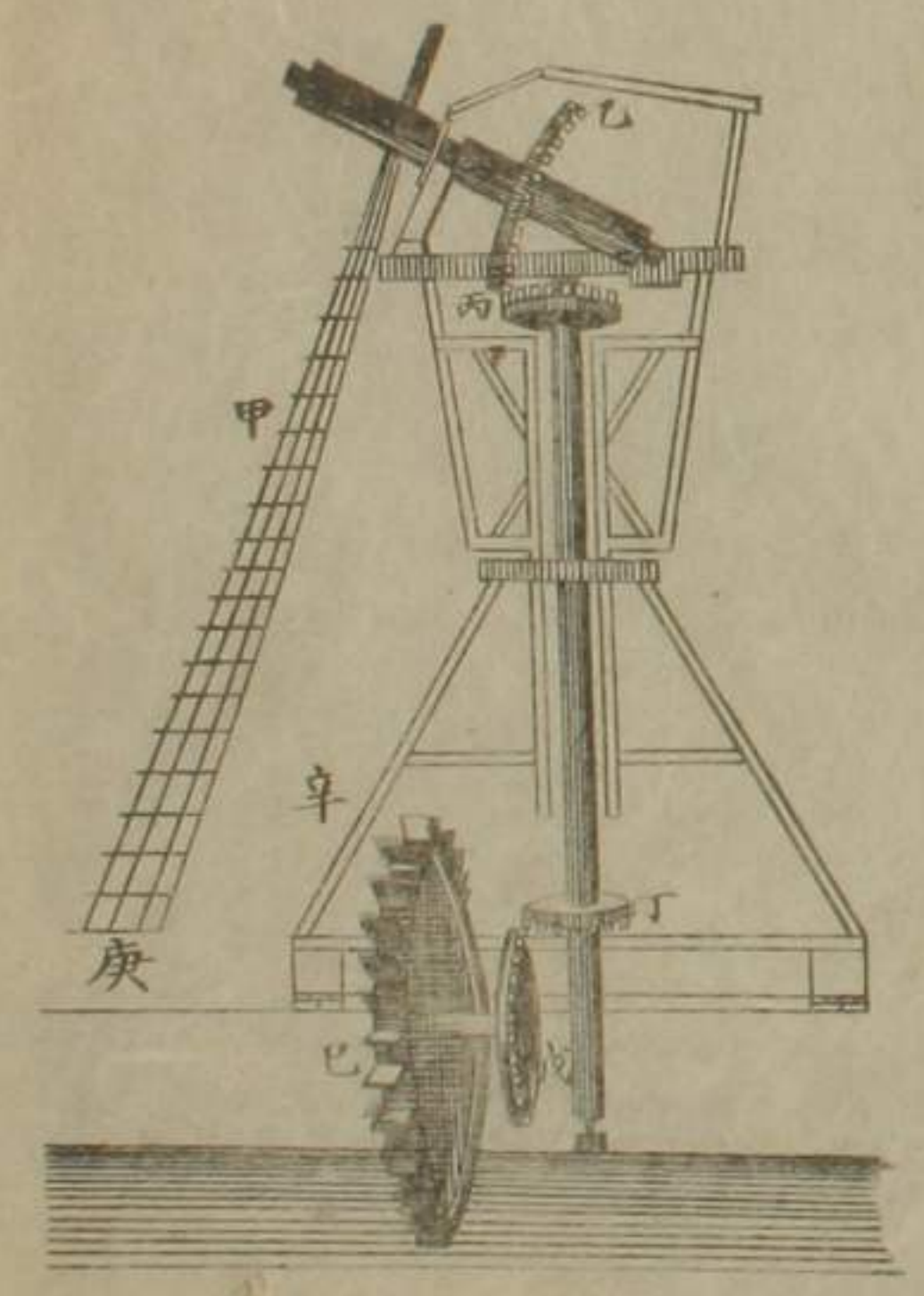
卷六之圖



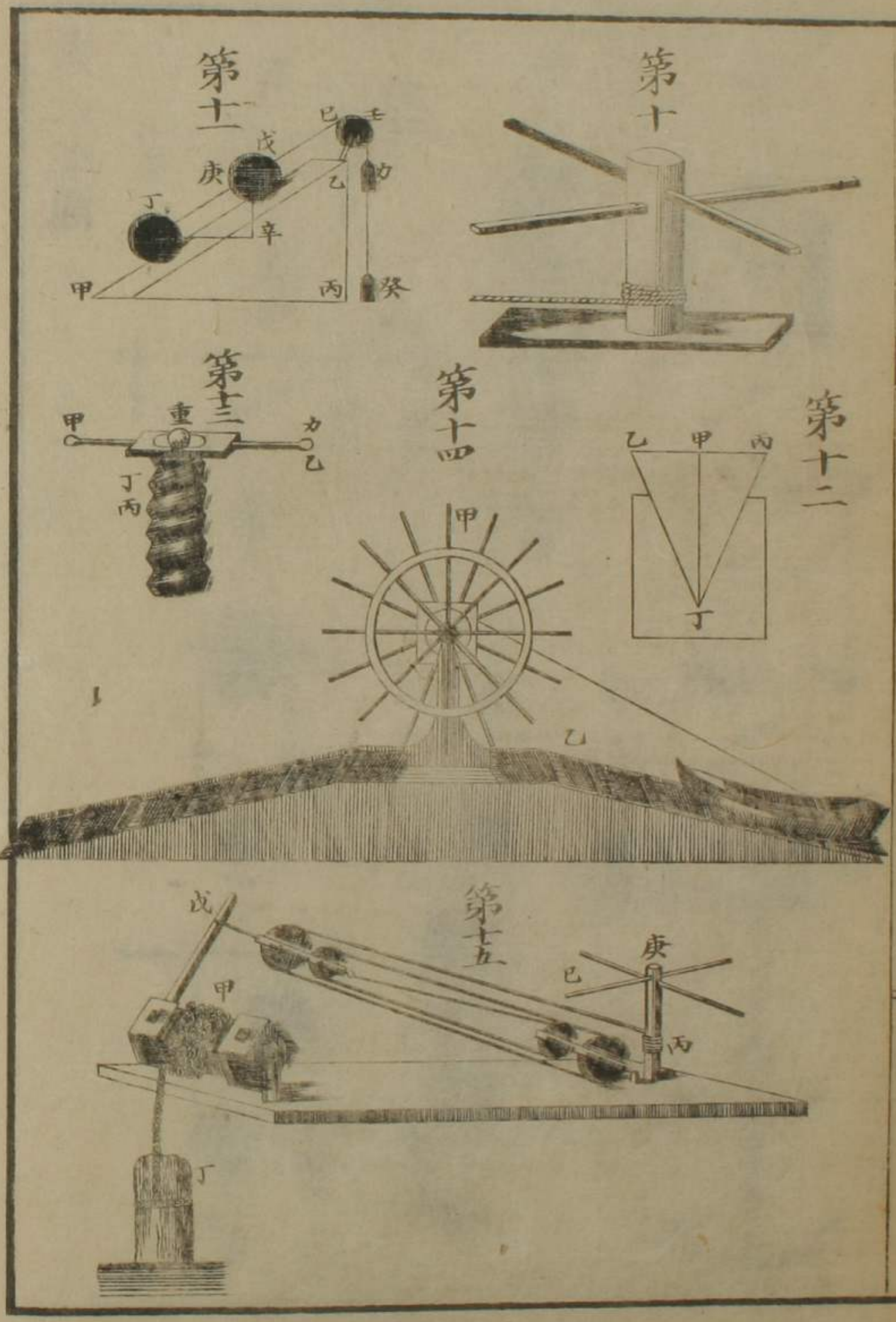
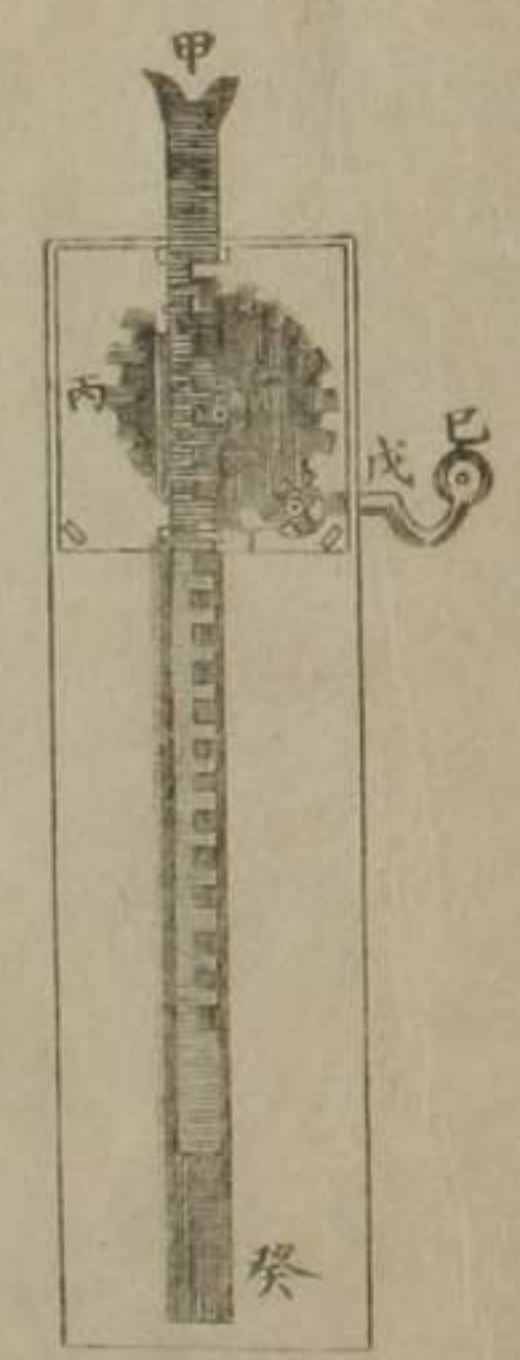
第十六



第十八



第十七



新刊
龍溪
廣義

卷六

